

授業科目	仏教学研究入門			単位	2.0
担当者	細田 典明	シラバスグループ		TBD010	
開講年度	2025	履修方法	T	設題数	1

■テキスト					
書名	著者	出版社	ISBN		
仏教入門	高崎直道	東京大学出版会	9784130130110		

■授業の概要	本科目は修士論文作成のため、本専攻の学生すべてが備えておくべき仏教の基本的教義をテキストの内容に従って学習する。具体的にはブッダの生涯とほとけ・教説の内容と実践・教団の組織と戒律・インド仏教史の概要を学ぶ。
--------	---

■学習の要点	受講する迄にテキストを熟読し、各章の内容をまとめてください。章毎の題目とそのキーワードを「」内に挙げますので、内容を整理するうえでお役立てください。 序章 仏教とは何か：「三宝」「上座仏教と大乘仏教」「三蔵」 一章 ブッダの生涯：「八相示現」「沙門」「涅槃」 二章 仏の本質：「如来」「三世仏と十方仏」「三身」 三章 法一 仏教の真理観：「縁起」「四諦」「法印」 四章 一切法一法の分類：「五蘊」「十二処」「十八界」 五章 輪廻と業・煩惱：「三界」「五道と六道」「業」 六章 悟りへの道：「八聖道」「三学」「聞思修の三慧」 七章 心一 実践の正体：「心」「意」「識」 八章 修行者の理想像：「四向四果」「出家と在家」「菩薩」 九章 戒律と教団の組織：「四衆」「具足戒」「五戒」 十章 仏教の歴史：「マウリヤ王朝」「クシャーナ王朝」「グプタ王朝」
--------	---

■学習の到達目標	テキストをよく理解し、「学習の要点」に書かれている項目の内容をまとめる。
----------	--------------------------------------

■成績評価の基準	テキストの内容理解とキーワードを踏まえてまとめられているかを重要な判断基準とします。テキストの引き写しは評価の対象外で、仏教の基本的教義に対してどのような問題意識を持ち、内容理解に反映されているかが高評価に繋がります。
----------	---

授業科目	法然教学特殊研究			単位	2.0
担当者	南 宏信	シラバスグループ		TBD110	
開講年度	2025	履修方法	T	設題数	1

■テキスト					
書名	著者	出版社		ISBN	
念仏の聖者 法然	中井真孝	吉川弘文館		9784642078511	

■授業の概要	法然の社会的意義と宗教性について、斯界の第一人者の論考を参照し、法然の全体像をつかみたい。
---------------	---

■学習の要点	文献研究の方法論を駆使し、歴史的事実にせまりつつ、その「事実」を通して見る法然思想の宗教的性格を確認し、〈救い〉の本質と、法然のもたらした救いの社会的意義を理解する。
---------------	---

■学習の到達目標	法然文献の取り扱いと評価について学び、その類型として、内容の解読などを通じて、正しい法然思想の理解につとめたい。ここで身につけた方法論を駆使し、自己の研究課題にアプローチし、一定の解決に導くことを到達目標とする。 科目最終試験は、レポートの評価基準と同様、誤字脱字、論理性、説得力、正答性を軸に 100 点から減点していく。問題と異なる答えの場合、不合格とする。
-----------------	--

■成績評価の基準	問われたことに正確に答えているか、問われたこと以外のことを記述していないか、論理的矛盾がないか、誤字脱字の有無、読み手に誤解を与えないか、をチェックし、正しい日本語で書かれていることを基準とする。
-----------------	--

授業科目	浄土宗学特殊研究			単位	2.0
担当者	齋藤 蒙光		シラバスグループ	TBD120	
開講年度	2025	履修方法	T	設題数	1

■テキスト			
書名	著者	出版社	ISBN
法然教学特殊研究Ⅰ：法然浄土教の仏身・仏土論	高橋弘次	佛教大学	9784907177560

■授業の概要	<p>法然の浄土教は所求（信仰の目的）、去行（目的実現の方法）という三方面から考察することができる。所求は速やかに生死を離れること（往生浄土）、所帰は阿弥陀仏、去行は称名念仏ということになる。ここでは法然の阿弥陀仏観を、中国浄土教の道綽、善導などの仏身論をふまえながら、また法然の浄土観については善導の『観経疏』などをふまえながら学習する。</p>
--------	--

■学習の要点	<p>・大乘仏教の仏身論は法身・報身・化身（応身）の三身論が最もよく知られている。中国仏教における阿弥陀仏論は諸師の浄土經典の注疏などの中にみられるが、ここではまず淨影寺慧遠の仏身論を学習し、次に慧遠が阿弥陀仏を応身とする理由を学習する。 ・道綽は『安樂集』において『大乘同性経』などをふまえて阿弥陀仏報身論を展開する一方で阿弥陀仏入涅槃を説く教説に対しては阿弥陀仏三身具足論を主張するところを学習する。 ・善導は道綽を受けて「是報非化」の阿弥陀仏論を展開するが、その場合、理論的な立場における論証に終始することなく、実践の立場における仏身論を展開するところにその特色があることを学習する。 ・法然も道綽、善導を受けて阿弥陀仏三身同体論（三身具足論）、三身別体論（報身論）を説くが、『逆修説法』では『無量寿経』にもとづく真化二身論を説くところを学習する。 ・浄土観については、指方（西方論）、立相（莊嚴論）などの問題を善導・法然に即して理解し、天台本覚法門との相違を学習する。</p>
--------	--

■学習の到達目標	<p>出題の要点を正しく理解し、理論的に解答が述べられていること。</p>
----------	---------------------------------------

■成績評価の基準	<p>道綽・善導・法然のそれぞれの仏身・仏土論について説明できていること。 道綽・善導・法然の仏身・仏土論に共通する点が説明できていること。</p>
----------	--

授業科目	浄土教学特殊研究 1			単位	2.0
担当者	曾和 義宏		シラバスグループ	TBD130	
開講年度	2025	履修方法	T	設題数	1

■テキスト			
書名	著者	出版社	ISBN
浄土教学特殊研究Ⅰ：浄土 経典成立史の研究	香川孝雄	佛教大学	9784907177133

■授業の概要	浄土教思想の中心経典である《無量寿経》諸本（梵語、蔵訳、漢訳（五種）の異訳テキスト）の成立・展開の歴史、インド大乘仏教における浄土教信仰の萌芽、浄土経典に説かれる実践体系について学ぶ。
--------	--

■学習の要点	浄土経典は、浄土教を研究する際の基礎資料となる。浄土経典の成立史は、インド・中国・日本のいずれの浄土教を研究するにしても必ず持つておくべき知識である。その点を念頭に置いて学習すること。
--------	--

■学習の到達目標	浄土教思想の中心経典の成立と展開、および内容を理解し、自らの言葉で論理的に述べることができる。
----------	---

■成績評価の基準	問題の趣旨に沿い、論旨が明確であること。
----------	----------------------

授業科目	浄土教学特殊研究2			単位	2.0
担当者	加藤 弘孝		シラバスグループ	TBD140	
開講年度	2025	履修方法	T	設題数	1
■テキスト					
書名	著者	出版社	ISBN		
浄土教学特殊研究Ⅱ：龍樹の浄土思想	香川孝雄	佛教大学	9784907177140		
■授業の概要					
一 概観 十住毘婆沙論とは 二 依拠する諸経典 三 著者について 四 訳出について 五 十住毘婆沙論の流伝 六 十住毘婆沙論の組織と概要 七 十住毘婆沙論と十地経 八 易行品と浄土教					
■学習の要点					
レポート学習の留意点、および設題の留意点を参照すること。					
■学習の到達目標					
学習の進捗と理解度を試験で測る。また、その到達度に即して成績評価する。					
■成績評価の基準					
問題の趣旨に沿い、論旨が明確であること。					

授業科目	仏教学特殊研究 1			単位	2.0
担当者	山極 伸之	シラバスグループ		TBD150	
開講年度	2025	履修方法	T	設題数	1

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
ブッダ伝 生涯と思想 (角川ソフィア文庫)	中村元	KADOKAWA	97840444089146
仏教学特殊研究Ⅰ: 学習の手引	並川孝儀	佛教大学	9784907177171

■授業の概要

仏教の祖であるゴータマ・ブッダ（釈尊）が、どのような目的で修行者となり、何を悟ったのか、またどのような人物であり、どのような思想を人々に伝えたのかなどを知ることは、仏教の基本を知ることにつながります。仏教のどの分野を研究する場合でも、まずはゴータマ・ブッダを学ぶことから始める必要があります。それによって、仏教とはどのような宗教であるかを端的に知ることができることになるからです。

■学習の要点

テキストを通読して、「科目の概要」で記した内容を理解するように努めてください。そのためには、仏教の基本的用語とその意味を正しく覚えることが肝要です。また、ゴータマ・ブッダの生涯は、後代の仏教徒たちによって作り上げられたものも多く混じっているが、その点を意識してどの部分が付加されたものであるのか、どれが史実であるのかも考えながら読んでください。

■学習の到達目標

ゴータマ・ブッダの生涯について、および彼の悟りは何であったかについて論述することができる。

■成績評価の基準

科目最終試験は、テキストをしっかりと読み、その中からゴータマ・ブッダの悟りを自分なりに考え、それを選んだ理由と悟りの内容が正確に記述されているかが成績評価の基準となる。

授業科目	仏教学特殊研究 2			単位	2.0
担当者	細田 典明	シラバスグループ		TBD160	
開講年度	2025	履修方法	T	設題数	1

■テキスト					
書名	著者	出版社	ISBN		
インド思想史	早島鏡正・他	東京大学出版会	9784130120159		

■授業の概要	輪廻思想を理解するために、仏教以前のバラモン教のヴェーダ・ウパニシャッド思想と、その反目としての沙門として知られる六師外道の輪廻思想を学ぶ。さらに、仏教思想の展開に伴い、仏教内での解釈の相違から生じた部派仏教・大乘仏教の輪廻思想を考察するとともに、仏教と相反する正統派哲学の思想を「六派哲学」を中心に概観する。
--------	---

■学習の要点	<p>輪廻思想を理解するに、特に以下の点を重点的に学び取る。 【ウパニシャッド】 五火・二道説によって、ヴェーダ祭式は輪廻思想としてまとめられる。また、世界の根本原因を「有(sat)」とするウッターラカの哲学と善因善果・悪業悪果を明言するヤージュニャヴァルキヤの哲学を学ぶ。 【六師外道】 六師外道の説には「善因善果・悪業悪果」認めず「死んだら灰になるだけ」と理解される説もある。また、輪廻の原因という「目に見えないもの」をどのように表現しようとし、輪廻とは世界のことであり、六師はいずれも苦行者であることはどのように理解されるのかを、彼らの説をテキストの原典訳から考察する。 【原始仏教】 ブッダ輪廻思想を認めたか否かについては、様々な解釈があるが、縁起思想は老死に至る生死輪廻の過程を示しています。テキストの原始仏典の訳からこの点について確認し、部派仏教までの輪廻思想の展開を考察するために、原始仏教の資料・部派仏教の諸派と資料について学習する。 【大乘仏教】 大乘仏教は空思想を中心に紹介されるが、輪廻思想と不可分のテーマであることは、輪廻は世界ごとによって理解される。その上で、『般若経』『華嚴経』『法華経』『浄土経典』などの大乘経典をテキストの原典訳から考察する。 さらに、中観や唯識などの大乘論書をテキストの原典訳から考察する。 【六派哲学】 インド正統派哲学の輪廻思想を、テキストの原典訳から考察する。</p>
--------	--

■学習の到達目標	輪廻思想の展開という観点から、インド思想全般の内容を学習する。
----------	---------------------------------

■成績評価の基準	レポートに関しては設題の焦点を外すことなく、自らしっかりと理解したことを構成を考えて表現すること。参考書などの単なる写し取ったものは評価の対象とならない。最終試験においては、問題の意図を理解し、重要な点を内容の質と分量において十分論じること。
----------	---

授業科目	仏教学特殊研究 3			単位	2.0
担当者	市川 定敬	シラバスグループ		TBD170	
開講年度	2025	履修方法	T	設題数	1

■テキスト					
書名	著者	出版社	ISBN		
宗教学及び宗教史	菅井大果	佛教大学	9784907177027		

■授業の概要	<p>宗教は時代の変化に関わらない真実を語るのではないか、そうならば、「宗教史」という、変化をいう語は馴染まないのではないか。確かに、宗教史が、学問として開始されるのは18世紀からで、教会や信仰が人を引きつける力を失い始める時代からである。宗教は距離を置いた、つまり、客観的な考察の対象になるのである。 使用するテキスト『宗教学及び宗教史』は、原始宗教から現代プロテスタントの展開に至るまで、広範な領域を概観するものである。 日常生活を超えるように思える宗教は、その生活にどのような基礎を持ち、生活をどのように導くか、この点に注意しながら、テキストの内容を追っていただきたい。 ※テキストのp.186までは、宗教学概論と重複する内容ですが、全く同じではありませんので、補完するものと考えてください。この授業ではp.188以降が主になります。</p>
--------	--

■学習の要点	<p>「宗教」という言葉によって括られる様々な流れ（ヒンズー教・仏教・ユダヤ教・キリスト教・イスラム教など）は、どれも同じような構造であると考えられがちですが、その内容を具に見ていくならば、はたして宗教という枠組は成立するのでしょうか。それぞれの宗教の発生と展開を概観することによって、我々が用いる「宗教」という概念について再考していきます。</p>
--------	---

■学習の到達目標	<p>信仰からは距離を置き、宗教の歴史性や地域性、そして共通性、普遍性を、客観的に探ろうとする宗教学の性格を把握しておくこと。日本の信仰史での神仏習合の重要性を理解すること。仏教がたえず、他の信仰と関わりを持ち、自分の意義を確かめていく歴史をつかむこと。</p>
----------	---

■成績評価の基準	<p>テキストが全体として、把握されていること、そしてこれが、レポートや答案から読み取れること。文章が羅列的でなく、論理的で明確であること。</p>
----------	--

授業科目	仏教文化特殊研究			単位	2.0
担当者	坪井 剛	シラバスグループ		TBD180	
開講年度	2025	履修方法	T	設題数	1

■テキスト					
書名	著者	出版社	ISBN		
日本宗教史 I 日本宗教史を問い直す	吉田一彦・上島享 編	吉川弘文館	9784642017411		

■授業の概要	<p>本テキストは、『日本宗教史』（6巻）として刊行されたうちの最初の一冊で、シリーズ全体の総説に当たる巻である。前半は古代・中世・近世近代の各時代における「日本宗教」の位置づけを通史的に概観し、後半は文化交流史・美術史学・建築史学・文学・民俗学の各分野から「日本宗教」に係わる論点をそれぞれ提示している。 そもそも、日本における「仏教」は、単に寺院や僧侶自身の中だけで完結しているわけではなく、当時の国家・社会・政治とも連動しており、その係わりの中から「仏教文化」が生成されると捉えることもできるだろう。本書は、そういった仏教と国家・社会・政治の係わりを前提として論述されており、また、これまでの多くの研究を前提とした概説的な説明が試みられている。 本書を読み込むことから、自身の研究テーマにどのような学問的広がりがあり得るのか、考察してみたい。</p>
--------	--

■学習の要点	<p>本書は日本仏教に係わる様々な論点を歴史的に通覧している。一見、自己の研究テーマに関連しないと思われる箇所であっても、読んでみれば、実は時代背景を共有していることに気づくことがあるだろう。 ただ重要なのは、その記述を単に追ってだけでなく、「批判的に」読み込むことである。「批判的」とは決して「否定」を意味するのではなく、その研究上の意義を認めた上で、どういった点が不足しているのか、今後どういった研究が必要となるのか、等々を考察することである。そのためには、本書に引用される史料や引用される諸研究を実際に読みながら、検討することが望ましい。</p>
--------	---

■学習の到達目標	<p>・近年の日本仏教史研究の成果を把握し、その上で、自身の研究の方向性を見定めることができるようになる。</p>
----------	---

■成績評価の基準	<p>・テキストの内容を正確に理解した上で、要点を正しく把握し、明快な論理で記述しているか。 専門用語の意味を正確に理解し、自らの文章の中に取り込むことが出来ているか。</p>
----------	---

授業科目	教育人間学特殊研究 1			単位	2.0
担当者	相馬 伸一	シラバスグループ		THC010	
開講年度	2025	履修方法	T	設題数	1

■テキスト			
書名	著者	出版社	ISBN
ヤン・パトチカのコメニウス研究 世界を教育の相のもとに	ヤン・パトチカ著／相馬伸一編訳	九州大学出版会	9784798501369

■授業の概要	チェコ 20 世紀の哲学者ヤン・パトチカ（1907-77 年）は、現象学や歴史哲学に大きな足跡を残したが、近代教育学の祖と称されるチェコ 17 世紀の思想家ヨハネス・コメニウス（1592-1670 年）の研究でも知られる。彼の研究は東西冷戦時代にあっては社会主義圏では評価されなかったが、現在ではその意義が広く認められている。この科目では、パトチカの主なコメニウス研究論文の日本語訳をとりあげ、高度に専門的な文献を読解する。
--------	--

■学習の要点	指定テキストを精読し、それを自分なりにまとめましょう。分からない言葉や事項は、インターネットなどを活用して調べましょう。最後に自分としてのテキストで言われていることに対して何が言えるかを考えましょう。この科目では、「コメニウスの教育の哲学」について精読してください。
--------	---

■学習の到達目標	①高度に専門的な文献の読解ができる。 ②哲学的・人間学的な教育研究の方法論の基礎を身につけることができる。 ③学習内容を自身の研究に応用する方途について考えること。
----------	--

■成績評価の基準	指定テキストの内容を理解できたかどうか（50 点）、関連文献をどれだけ参照したか（30 点）、自分自身の考察があるか（20 点）で評価します。
----------	---

授業科目	教育人間学特殊研究 2			単位	2.0
担当者	山内 乾史	シラバスグループ		THC020	
開講年度	2025	履修方法	T	設題数	1

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
「道徳教育と社会」ノート (第二版)	山内乾史・武寛子	学文社	9784762032592

■当該科目については、年度途中でシラバスおよびテキストが変更となったため、経過措置として 2026 年 3 月 7 日まで 2024 年度シラバスおよびテキストで履修することができます（2025 年度入学者を除く）。

■授業の概要	<p>学校教育における人間形成において、道徳教育は重要な役割を担う。その観点から日本における道徳教育を見直す時、フランスの社会学者エミール・デュルケムの著書『道徳教育論』において唱えられた道徳性の三要素、「規律の精神」、「社会集団への愛着」、「意志の自律性」はいまなお、考察に値するものであり、特に第三要素の「意志の自律性」は自由主義国家における道徳教育の在り方を考えるうえで重要な示唆を持つ。この授業では、現代日本における「主体的・対話的で深い学び」を掲げる道徳教育の中で「意志の自律性」が持つ意味について考察を深める。</p>
--------	---

■学習の要点	<p>指定テキストを精読し、それを自分なりにまとめましょう。分からない言葉や事項は、インターネットなどを活用して調べましょう。最後にテキストで言われていることに対して、自分は何が言えるかを考えましょう。</p>
--------	---

■学習の到達目標	<p>①高度に専門的な文献の読解ができる。 ②哲学的・人間学的な教育研究の方法論の基礎を身につけることができる。 ③学習内容を自身の研究に応用する方途について考えることができる。</p>
----------	---

■成績評価の基準	<p>指定テキストの内容を理解できたかどうか（50 点）、関連文献をどれだけ参照したか（30 点）、自分自身の考察があるか（20 点）で評価します。</p>
----------	--

授業科目	比較教育学特殊研究 1			単位	2.0
担当者	杉本 均	シラバスグループ		THC050	
開講年度	2025	履修方法	T	設題数	1

■テキスト			
書名	著者	出版社	ISBN
比較教育社会学へのイメージ	原清治・山内乾史・杉本均編	学文社	9784762025945

■授業の概要	<p>現在、日本は国際社会に入ったといわれている。留学生 30 万人計画にも代表されるように、多くの異文化を持った人々を我々の社会は受け入れている。従来の閉鎖的社会から、より開放的な社会に移行する場合、学校はどうあるべきか、また教師は子どもたちとどのように接するべきかが問われる。この科目は、教育において、教師が寛容の心を持ち、子ども一人ひとりが持っている価値観を大切にすることが重要であることを認識する。</p>
--------	---

■学習の要点	<p>1. 比較教育学の目的について理解する。 2. 比較教育学の方法論について理解する。 3. 外国の教育を知るためにデータについて理解する。 4. 教育のグローバル化について理解する。 5. 外国人の子ども教育について理解する。</p>
--------	--

■学習の到達目標	<p>テキストをよく理解し、 それぞれの内容をまとめる。</p>
----------	----------------------------------

■成績評価の基準	<p>テキストに即して出題する。 解答はテキスト学習にもとづいて答えること。</p>
----------	--

授業科目	比較教育学特殊研究2			単位	2.0
担当者	杉本 均		シラバスグループ	THC060	
開講年度	2025	履修方法	T	設題数	1

■テキスト			
書名	著者	出版社	ISBN
比較教育社会学へのイメージ	原清治・山内乾史・杉本均編	学文社	9784762025945

■授業の概要	日本には様々な教育問題が存在しているが、それらは世界でどのような状況なのか、また日本の状況は世界においてどのような位置にあるのか。外国の取り組みや改革で、日本の問題解決・改善の参考になるものはないのか。学校病理や学歴社会の問題、国際化する日本社会の問題について、国内からは見えにくい性質について、世界的視野から国際的比較を通じて考察する。
--------	---

■学習の要点	1. 学校病理の現状と解決への取り組みについて国際的視野で理解する。 2. 学歴社会の特徴について国際的な視野で理解する。 3. 日本の教育の国際化の現状と課題について理解する。 4. 欧米諸国の教育制度の特徴とその改革動向について理解する。 5. アジア諸国の教育制度の特徴とその改革動向について理解する。
--------	--

■学習の到達目標	テキストをよく理解し、 それぞれの内容をまとめる。
----------	---------------------------

■成績評価の基準	テキストに即して出題する。 解答はテキスト学習にもとづいて答えること。
----------	-------------------------------------

授業科目	教育制度学特殊研究 1			単位	2.0
担当者	原 清治	シラバスグループ		THC070	
開講年度	2025	履修方法	T	設題数	1

■テキスト					
書名	著者	出版社		ISBN	
「使い捨てられる若者たち」は格差社会の象徴か	原清治ほか著	ミネルヴァ書房		9784623054626	

■授業の概要	フリーターやニート、ワーキングプアに代表される若年未就労者問題についての分析アプローチとして、アンケート調査では析出されない現象をとらえるインタビューや参与観察といった質的データ分析は、研究手法の重要な位置を占めているといえる。 教育制度学特殊研究1では、若年未就労者の実態をとらえるために現状認識に基づいた質的データ分析に求め、これからの若者の教育と労働の関係について、どのような理論を構築していくべきかについて明らかとすることを目的とする。
--------	--

■学習の要点	大学院修士課程レベルの科目として、総論的な内容と教育方法についての理解を深めることを目的とする。さらに、調査分析の方法としての質的データの取り扱いについて理解し、もって現代社会の問題を仮説・演繹的に導くことができる力を涵養する。
--------	--

■学習の到達目標	①学習の進捗と理解度を試験で測る。またその到達度に即して成績評価する。 ②問題は、テキストに即して出題する。よって、解答はテキスト学習の範疇で記述すればよい。 ③採点は、加算方式を基本とする。問いに対して、解答するに必要だとと思われるキーワードを含むこと。 ④出題の要点を正しく理解し、理論的に解答が述べられていること。論述の展開とその深度により評価する。 ⑤内容が主観的過ぎるものは不合格（D評価）とする。できるだけテキストの記述に添って客観的に記述すること。
----------	---

■成績評価の基準	①「学習の要点」に書かれた学習目標に即してテキスト学習を進めてください。その学習の進展と理解度を試験で問います。 ②つぎの2つの視点から評価します。 (1)内容について理解しているか、用いているキーワードが適切であるか。 (2)文の展開が論理的な構成になっているかどうか。
----------	--

授業科目	教育制度学特殊研究 2			単位	2.0
担当者	原 清治	シラバスグループ		THC080	
開講年度	2025	履修方法	T	設題数	1

■テキスト					
書名	著者	出版社		ISBN	
「使い捨てられる若者たち」は格差社会の象徴か	原清治ほか著	ミネルヴァ書房		9784623054626	

■授業の概要	<p>1980年代から90年代にかけて、英国はさまざまな教育改革を断行してきた。代表例としてナショナル・テストの実施やナショナル・カリキュラムの導入が挙げられる。急進的な教育改革が進む一方で、16～18歳の一部に教育、就労、職業訓練のどのカテゴリにも属さない若者が統計上確認されるようになった。彼らに対して、英国は教育や福祉といった縦割り行政を超えた包括的支援を行い、就労に移行しやすい環境を提供している。 本科目では、1980年代からの英国の実態と、「使い捨てられる若者たち」の英国の特徴について明らかにし、彼らに対する効果的なアプローチの一つであるコネクションズ・サービスについて理解することを目的とする。よって、我が国における教育から労働への円滑な移行を促すためには、どのような視点が必要になるのかを明らかにしてみたい。</p>
--------	---

■学習の要点	<p>英国は70年代から高福祉国家の副作用としての高い失業率（英国病）に苦しみ、サッチャーを代表とする新自由主義にもとづく教育改革を断行してきた。本科目で論じる「使い捨てられる若者たち」は、そうした教育改革によって表面化した排除されがちな若者の現状を示したものである。なぜ彼らが排出されてしまったのか、彼らの特徴や現状について理解すること、他国と異なる英国の「使い捨てられる若者たち」について理解することが望ましい。また、英国において特徴的なコネクションズ・サービスの概要や、なぜこのサービスが「使い捨てられる若者たち」に効果的であるのかについても分析・考察することが望ましい。</p>
--------	---

■学習の到達目標	<p>上記のような学習を経て、受験するのが科目最終試験です。</p>
----------	------------------------------------

■成績評価の基準	<p>①「学習の要点」に書かれた学習目標に即してテキスト学習を進めてください。その学習の進展と理解度を試験で問います。 ②つぎの2つの視点から評価します。 (1)内容について理解しているか、用いているキーワードが適切であるか。 (2)文の展開が論理的な構成になっているかどうか。</p>
----------	---

授業科目	教育方法学特殊研究 1			単位	2.0
担当者	大下 卓司		シラバスグループ	THC090	
開講年度	2025	履修方法	T	設題数	1

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
有斐閣アルマ 新しい時代の教育方法 (第3版)	田中 耕治/鶴田 清司/橋本 美保/藤村 宣之	有斐閣	9784641222373

■授業の概要

2020年度からの学習指導要領に対応した図書である「教育の方法と技術」も参考にしながら、知識基盤社会で求められている資質・能力を育成する教育方法・技術を考える。特に、教える重要性和主体的な学習を支援する学習を実践するなかで、学力の3要素を育成する実践的な教育を考える。

■学習の要点

1. 西洋における教育思想と教育方法の歴史から、人間にとって教育とはどのような意義があるのか、また、16世紀から20世紀半ばに至る歴史の流れにおける教育思想や教育方法が展開したのか、その概要をつかむ。その過程で、代表的な教育者の思想や概念を学ぶ(第1章)|2. 日本における教育改革と教育方法の歴史について、1.と比較しながら、19世紀から20世紀半ばまでを概観する。特に、日本の場合、寺子屋における学びに代表される近世、学制が始まり、第二次世界大戦前における近代、第二次世界大戦以降の現代に大きく区分される。それぞれの時代の教育の特徴、および方法について学ぶ。(第2章)|3. 現代教育方法学における論点と課題として、学力とは何か、問題解決学習とは何か、授業における楽しさとは何か、教育技術とは何か、という4つの代表的な論点について学ぶ。(第3章)|4. 授業を構成する要素として、教育目標・内容について学び、子どもたちが何を学ぶ内容や能力がどのように考えられているのかという点、について理解を深める。(第4章)|5. 学習そのものについて理解を深める。心理学における代表的な学習概念について学ぶとともに、ICTを活用した学習について、その可能性と課題について考える。(第5章)|6. 学力そのものについて、学力調査などを参照し、どのようなモデルとしてとらえられるか、また、学力を形成するならどのような学びが必要なのか、ということについて学ぶ。(第6章)|7. 授業をデザインするにあたって必要な教育技術について学ぶ。一方で、授業において予想外の出来事が起こることが一般的である。こうした授業について、教師・子ども・教材という3者の関係から理解を深める。(第7章)|8. 授業にあたっては、どのような道具や素材を使って(教材・教具)、どのような環境で、子どもたちの学びを支援するかが重要である。教材づくり、「教材」概念のとらえなおし、教科書教材の活用、学習環境について理解を深める。(第8章)|9. 授業を考えるうえで、教育目標と表裏一体である教育評価について学ぶ。評価に関する基礎的な概念に始まり、昨今のコンピテンシー・ベースの学びを考える上で重要な「真正の評価」について理解する。(第9章)|10. 学校教育において教科の学びと並んで重要な「教科外の学習」について学ぶ。「集団作り・自治活動」、「文化活動」、「相談活動」という代表的な構成要素に着目し、教科外教育を構想する上での基礎を身に着ける。(第10章)|11.上記の学びを総括して、最後に、どのような教師を目指すべきか、について学ぶ。学校生活を営む子供にとって教師の影響は大きい。優れた教師とはどのような教師であり、そのような教師となるために教師を志す学習者にはどのような学びが必要なのかを考える。(第11章)

■学習の到達目標	知識基盤社会で求められている資質・能力を育成する教育方法・技術を考えられるようになる。特に、主体的な学習を支援する効果的な協調学習を実践できるようになる。
■成績評価の基準	最終試験の 60 点以上を合格とする

授業科目	教育方法学特殊研究 2			単位	2.0
担当者	奥畑 志帆	シラバスグループ		THC100	
開講年度	2025	履修方法	T	設題数	1

■テキスト			
書名	著者	出版社	ISBN
人間科学研究法ハンドブック〔第2版〕	高橋順一、大淵憲一、渡辺文夫著	ナカニシヤ出版	9784779504198

■授業の概要	<p>修論を書くにあたって科学的な研究を実践することになる。研究とは課題発見解決手法であり、その進め方を十分に理解しておくことが必要となる。本授業ではテキストを基に、研究の進め方の要点を押さえると共に、データ収集法の特徴、および分析の基本など、人間科学領域における研究の進め方を学ぶ。</p>
--------	--

■学習の要点	<p>研究とは何かという基本的なことを理解する。この中で課題発見解決学習のプロセスや、研究の進め方を学ぶ。 研究のタイプには文献調査を基に行う研究や、人間を対象として調査研究を行う実践的な研究がある。これらの研究のタイプ、それらの研究の中で実施するデータの収集法の種類と特徴を学び、自身の研究に即した収集法を検討する。人間科学を対象とした研究の中では、文献調査法、内容分析法、観察法、調査的面接法、質問紙調査法、実験法など多くの研究方法があるが、それらの特徴、および結果の分析方法等を学ぶ。最後に研究論文の書き方を学ぶ。</p>
--------	--

■学習の到達目標	<p>人間科学領域における研究の進め方を習得し、自身に適合したデータ収集や分析法を考え、修論研究に応用できるようになる。</p>
----------	--

■成績評価の基準	<p>最終試験の 60 点以上を合格とする</p>
----------	---------------------------

授業科目	教育史特殊研究			単位	2.0
担当者	相馬 伸一		シラバスグループ	THC310	
開講年度	2025	履修方法	T	設題数	1

■テキスト					
書名	著者	出版社	ISBN		
コメニウスの旅	相馬伸一著	九州大学出版会	9784798502373		

■授業の概要	<p>チェコ 17 世紀の思想家ヨハネス・コメニウス（1592-1670 年）は、「近代教育学の祖」あるいは「諸国民の教師」と称されている。しかし、そうした評価は一朝一夕に出来上がったものではない。私たちが暗黙の裡に受け入れている言説は、教育に限らず、歴史的に生成されたものである。コメニウスは、言説が歴史的な構成物であることを洞察していた。現代歴史学の用語でいえば、コメニウスにはメタヒストリー的な視点があった。この科目では、コメニウスをめぐる言説の歴史をとおして、教育を思想史的に考察することの意義を深く考えてほしい。</p>
--------	---

■学習の要点	<p>指定テキストを精読し、それを自分なりにまとめましょう。分からない言葉や事項は、インターネットなどを活用して調べましょう。最後に自分としてのテキストで言われていることに対して何が言えるかを考えましょう。この科目では、「20 世紀におけるコメニウスの評価の特質」・「思想史研究の方法と課題」について該当の章を精読してください。</p>
--------	--

■学習の到達目標	<p>①高度に専門的な文献の読解ができる。 ②思想史的な教育研究の方法論の基礎を身につけることができる。 ③学習内容を自身の研究に応用する方途について考えることができる。</p>
----------	---

■成績評価の基準	<p>指定テキストの内容を理解できたかどうか（50 点）、関連文献をどれだけ参照したか（30 点）、自分自身の考察があるか（20 点）で評価します。</p>
----------	--

授業科目	教育心理学特殊研究			単位	2.0
担当者	橋本 憲尚	シラバスグループ		THC320	
開講年度	2025	履修方法	T	設題数	1

■テキスト					
書名	著者	出版社		ISBN	
実践をふりかえるための教育心理学	大久保智生・牧郁子編	ナカニシヤ出版		9784779505317	

■授業の概要	<p>日本においては長らく「科学的事実は真理である」と世間一般では信じられてきたが、「STAP 細胞」の例を挙げるまでもなく、近年、こうした「絶対的な科学信仰」の呪縛は解けてしまったように思われる。むしろ、「根拠なく社会に流布し、信じられている言説」について、それを裏付けるデータを厳しい目で吟味し批判的に思考することが、社会人としての「科学リテラシー」と受け止められるようになったことは大変好ましいことかもしれない。本講では、教育心理学に関わる「教育実践にかかわる言説」を主に社会心理学の視点から吟味し、教育事象というものの複雑さ・それを捉える視点の多様性への気づきを図り、自らの「科学リテラシー」を磨く契機となることを目的とする。</p>
--------	---

■学習の要点	<p>①「子どもたちの社会性の欠如」が指摘されて久しいが、そこには確たる根拠があるのだろうか。おとなの漠然とした印象だけ語られたり、学校で仲間と上手く付き合っていない子どもたちが目立つようになったからではないだろうか。こうした疑問を解くためには、「学校への不適応」即「社会性の欠如」という「子ども観」を問い直すこと、「社会性」という資質を「スキル」として捉えて訓練するという発想を吟味することが必要であることを理解してもらいたい。②「学校は先生たち次第である」「チーム学校としての協働性が不可欠だ」等というフレーズは幾度となく耳にするが、日常的に多岐にわたる職務に忙殺されている教師たちにとっては、「正直、手が回らない」というのが本音ではなかろうか。しかし、それなら「校長がリーダーシップを発揮せよ」と責任転嫁するのはいささか不合理であろう。本講では「協働性」の意味を的確に把握したうえで、「学校という職場風土(環境)」と「リーダーシップ」との関わりの視点から、実り多き教育現場を実現するためには何が必要なのかを自分なりに考察してもらいたい。</p>
--------	---

■学習の到達目標	<p>(1) われわれが日常的に接している「教育実践にかかわる言説」について、単に専門家が唱えているからといって鵜呑みにするのではいけない。一旦は本当だろうかと疑問を投げかけてみる、様々な角度から言説に検討を加え矛盾がないか吟味するという態度を身につけること。(2) 「教育実践の場」においては、教師は子どもだけでなく職場仲間や保護者・地域の人々など様々な人間関係のなかで活動する。そのことを念頭に置けば、教育問題の検討にあたっては多角的な視点からの見解を突き合わせる作業は不可欠である。</p>
----------	--

■成績評価の基準	<p>【レポート設題】 本科目においては、レポートの記述が「設題の留意点」をふまえた論述と判定されない場合、科目最終試験の受験資格が与えられないことに注意。テキスト学習を丁寧に行ない、設題の趣旨をしっかりとらえて論述工夫を試みること。 【科目最終試験】 本科目の最終試験の設題は、単にテキストの記述を機械的に暗記するだけでは論述できないものとなっている。受験にあたっての留意点をしっかりと読んで、その記述に即した準備を怠らないように。</p>
----------	--

授業科目	障害児心理学特殊研究			単位	2.0
担当者	渡邊 照美		シラバスグループ	THC330	
開講年度	2025	履修方法	T	設題数	1

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
特別支援教育を学ぶ人へ	菅原伸康ほか編著	ミネルヴァ書房	9784623059911

■授業の概要

本科目では、主に、知的障害、自閉症スペクトラム、注意欠陥多動性障害、学習障害、運動障害、中途障害を対象として、各々、定義、診断、病因、特徴等の理解とその支援方法について学ぶ。加えて、障害の概念、定義、障害臨床について理解を深め、障害児の生理学的知識、障害児の親の心理と支援、特別支援教育等について学ぶ。

■学習の要点

本科目を学習するにあたっては、テキストをよく読み、障害児・者に関する新たな情報を他の文献講読や実体験等を通じて、実際の・社会的な視野から認識を広げ、本科目に取り組むようにしてほしい。|1. 知的障害の定義と分類、原因、特徴について理解し、あわせて支援方法について考えておくこと。|2. ASDの定義と分類、原因、特徴について理解し、あわせて知的レベルの分類の視点から自閉症を分類し、それらの支援方法について考えておくこと。|3. ADHDの定義と分類、原因、特徴について理解し、あわせて多動性障害児にかかわる際の注意点について考えておくこと。|4. LDの定義と分類、原因、特徴について理解し、あわせて学習障害児にかかわる際の注意点について考えておくこと。|5. 運動障害の定義と分類、原因、特徴について理解し、その中で特に脳性まひの特徴や支援方法について考えておくこと。|6. 障害児の親・家族の心理と支援について理解し、あわせて親の障害受容の問題を社会受容の視点からとらえて考えておくこと。

■学習の到達目標

科目最終試験の問題内容について問題意図から外れないように、もれなく網羅して記述すること。特に問題を無視して自分の体験談を述べることで解答することは望ましくないので気をつけること。テキストで学んだ内容を記述すること。また、自分自身の意見も記述することが望ましい。課題通りに、例えば、定義、分類、原因、支援方法、各々について配点しているので片寄らずに解答すること。

■成績評価の基準

・テキストの理論・内容を踏まえているかどうか。|・テキストの理論・内容に触れず、実践例のみ記述していないかどうか。|・テキストを引用するだけでなく、自身の考察が深まっている

授業科目	児童教育特殊研究			単位	2.0
担当者	佐藤 和順	シラバスグループ		THC340	
開講年度	2025	履修方法	T	設題数	1

■テキスト			
書名	著者	出版社	ISBN
男女共同参画意識の芽生え 保育者から子どもへの再生 産	佐藤和順著	ふくろう出版	9784861864315
保育者のワーク・ライフ・バ ランス	佐藤和順著	みらい	9784860153311

■授業の概要	男女共同参画社会構築に関わるジェンダー概念の理解とこれまでの教育・保育とジェンダーに係る先行研究の整理を行う。その上で、男女共同参画社会構築のための保育のあり方を検討する。
--------	--

■学習の要点	本科目では、男女共同参画社会構築のための保育の理解及び構築を目指す。 具体的には、以下の事項である。 ・ジェンダー・パースペクティブと教育研究の接点 ・幼児期におけるジェンダー形成と子ども文化 ・保育者のワーク・ライフ・バランスと働き方改革 ・良妻賢母思想と公教育体制・母性神話と3歳児神話・男女共同参画と保育再考
--------	---

■学習の到達目標	本科目の試験は、試験場で時間を限定して行なわれ知識量が問われる暗記式の試験ではない。テキストを基に第1設題(1)、(2)に解答する過程で得た知識等を基盤に論述すること。
----------	--

■成績評価の基準	本授業の到達目標に対する達成度を科目最終試験により判断する。
----------	--------------------------------

授業科目	成人教育特殊研究			単位	2.0
担当者	堤 拓也		シラバスグループ	THC350	
開講年度	2025	履修方法	T	設題数	1

■テキスト					
書名	著者	出版社		ISBN	
社会教育・生涯学習研究のすすめ	津田英二 編著 久井 英輔 編著 鈴木真理 編著	学文社		9784762025167	

■授業の概要	急速に変化する現代社会において、成人教育に求められる役割はますます大きくなっている。成人教育の現状を捉え、その展望を切り拓いていくためには、社会教育・生涯学習の研究分野で蓄積されてきた理論と研究方法について理解を深め、発展していくことが求められる。 この科目では、社会教育・生涯学習研究の知見に触れることで、成人教育研究の基礎的な構えと方法を習得することを目的とする。
--------	--

■学習の要点	・社会教育および生涯学習に関する基本的な理念や意義を理解する。 ・成人教育研究の基礎的な構えと方法について理解を深める。 ・成人教育実践を分析する方法について具体例に基づき考察する。
--------	---

■学習の到達目標	・この科目では、成人教育研究の基礎的な構えと方法について理解を深め、成人教育実践を分析する方法について具体例に基づき論じられることを到達目標とする。 ・レポート作成および答案作成に当たっては、根拠を明確にする必要がある。
----------	--

■成績評価の基準	社会教育・生涯学習の理念を踏まえて、成人教育実践を分析する方法について具体的に考察されていること。 最終評価は提出された論述試験にレポートを加味しての総合評価とします。
----------	--

授業科目	臨床心理学特論 1			単位	2.0
担当者	松瀬 喜治	シラバスグループ		THE010	
開講年度	2025	履修方法	T	設題数	1
■テキスト					
書名	著者	出版社	ISBN		
新・臨床心理士になるために [令和 6 年版]	(公財) 日本臨床心理士資格認定協会	誠信書房	9784414417067		
■授業の概要					
		「臨床心理学」に特化される専門性とは何かについて、基本的学習を行う。その歴史的展望を通して、臨床心理士の 4 つ基本的業務を学習する。			
■学習の要点					
		臨床心理学の成立してきた歴史をたどり、西洋および日本における現状を知ること。 臨床心理士の基本的な業務内容について、心理臨床の実践専門家としての理解を深める。			
■学習の到達目標					
		解答は最低限テキスト・参考文献の学習の範囲内で記述すればよいが、自身の臨床実践の経験からの論述が含まれていることが望ましい。実践の経験がない人は、自分の人生経験・対人関係の問題の中での経験でも可とする。			
■成績評価の基準					
		1 論文としての形式が整っているかという視点。引用・参考文献の記入の仕方。文献欄の記入方法など。 2 文献に基づく論理的文章で記述されているかという視点。 3 自身の実践的な経験に基づく論述がされているかという視点。 4 全体的に説得力のある論文に仕上がっているかという視点。			

授業科目	臨床心理学特論2			単位	2.0
担当者	藤岡 勲		シラバスグループ	THE020	
開講年度	2025	履修方法	T	設題数	1

■テキスト			
書名	著者	出版社	ISBN
心理援助の専門職になるために ―臨床心理士・カウンセラー・PSW を目指す人の基本テキスト―	マリアン・コーリィ、ジェラルド・コーリィ著	金剛出版	9784772408226

■授業の概要	臨床心理に関する援助専門職として、自分自身の課題にどのように取り組んでいくのか、自らの特性を知り、それを効果的な援助にいかにかに活かしていくかについて理解を深める。 援助課程の各段階を概観し、それぞれにおける課題と必要な知識を学ぶとともに、援助専門職としての在り方や身に付けるべき事柄について学ぶ。
--------	---

■学習の要点	臨床心理学の基礎知識を学ぶだけでなく、自らの特性にも目を向けつつ、いかに援助活動に生かしていったらよいか、援助活動の実践において出会う様々な困難にどのように対応していったらよいかなど、他者を援助する際の自らの課題に重点を置きながら学ぶ。
--------	--

■学習の到達目標	1 初心の臨床心理の援助専門職が直面する諸問題と対応を理解している。 2 援助過程を構成する諸段階を理解している。 3 自らの価値観が援助関係にどのような影響を及ぼすのかを理解している。
----------	---

■成績評価の基準	テキストを正しく理解していること：50%、自身の考えを明確かつ論理的に展開していること：50%
----------	---

授業科目	臨床心理面接特論 1			単位	2.0
担当者	牧 剛史	シラバスグループ		THE030	
開講年度	2025	履修方法	T	設題数	1
■テキスト					
書名	著者	出版社	ISBN		
新訂 方法としての面接 臨床家のために	土居健郎著	医学書院	9784260117692		
■授業の概要					
		臨床心理面接について、何を目的として、どのようなことに留意して行うのか、また臨床心理学的対人援助の専門性はどのようなところにあるのか、臨床心理学に固有の人間へのまなざしについて学修することを目的とする。			
■学習の要点					
		学習の要点は以下の通り。 ・「臨床心理面接」とは何か、その専門性について考えること ・「臨床心理面接」のねらいについて理解すること ・「聴く」ことのもつ意味について学ぶこと ・最初の面接で留意すべきことについて理解すること ・「見立て」について考えること			
■学習の到達目標					
		対人援助としての臨床心理面接のねらいと専門性について端的に記述することができることが目標となる。また、最初の面接で目指すべきことがら、心理臨床家の見立てを行う際の姿勢について記述できることが目標となる。現象の一面的な記述に留まらず、現象の多義性、多面性を理解した記述がなされていることが、成績評価に反映される。			
■成績評価の基準					
		テキストを正しく理解している：50%、自身の意見を明確かつ論理的に展開している：50%			

授業科目	臨床心理面接特論 2			単位	2.0
担当者	藤岡 勲	シラバスグループ	THE040		
開講年度	2025	履修方法	T	設題数	1
■テキスト					
書名	著者	出版社	ISBN		
カウンセリングの実際問題	河合隼雄著	誠信書房	9784414401196		
■授業の概要					
	心理援助職と来談者が互いに向き合う「面接」は、心理臨床実践の中核と言える。その特質を知識として理解するだけでなく、実践的な理解へとつなげるために、テキストの事例を中心に据えて、実際の面接において生じる問題を具体的に検討し、臨床心理面接の本質について理解を深めることを目的とする。				
■学習の要点					
	テキストは、初心者が疑問に感じることや困難に感じることを取り上げ、著者が質問に答える形で、臨床心理面接のエッセンスを読者に伝える内容になっている。そこで、自分自身も同じような疑問を持ったことはないか立ち止まって考え、テキストの内容を読み込むこと。事例では、自分の身を、セラピスト側、クライアント側のそれぞれに置いて考えてみること。「臨床心理面接特論1」の学習内容を振り返りながら学習をすすめ、臨床心理面接の本質について理解を深めること。				
■学習の到達目標					
	臨床心理面接の実際問題について検討することにより、人と人との相互プロセスである面接の本質をより深く理解することを目標とする。そのためには自身の考えを柔軟にすることや、人の心を理解する理論や知識を学習することが大切であり、そうした点が成績評価に反映される。				
■成績評価の基準					
	出題の要点を正しく理解し、論理的に論じられていること。論述の展開と、その深度により評価する。				

授業科目	心理学研究法特論			単位	2.0
担当者	箕浦 有希久	シラバスグループ		THE210	
開講年度	2025	履修方法	T	設題数	1

■テキスト			
書名	著者	出版社	ISBN
心理学研究法 科学の本質から考える	森正義彦 篠原弘章共著	培風館	9784563058678

■授業の概要	臨床心理学を学ぶための基礎としての心理学の研究法について学習する。
--------	-----------------------------------

■学習の要点	心理学科を卒業された方には容易であると思われるが、初めて臨床心理学を学ばれる方には、特に心理学の研究法について学習することが必要である。心理学の研究法は観察、調査、実験が主であるが、心理臨床の場合は特にクライアントを対象にするようなことがあるので、倫理面も合わせて学習することになる。
--------	--

■学習の到達目標	心理学研究法の概略を理解し、研究を行う際に適切な研究手法を選択できる。
----------	-------------------------------------

■成績評価の基準	研究を行う際に、適切な研究手法を選択できるかどうか、科目最終試験の記述をもとに判定する。自分で考えたものかどうかで評価が異なるので、十分に答案作成には注意すること。
----------	--

授業科目	臨床心理学研究法特論			単位	2.0
担当者	牧 剛史	シラバスグループ		THE220	
開講年度	2025	履修方法	T	設題数	1

■テキスト			
書名	著者	出版社	ISBN
心理学研究法入門 調査・実験から実践まで	南風原朝和・市川伸一・下山晴彦編	東京大学出版会	9784130120357
初心者のための臨床心理学研究実践マニュアル〔第2版〕	津川律子・遠藤裕乃著	金剛出版	9784772412193

■授業の概要	臨床心理学における研究について概観し、臨床心理学における研究の特徴を多角的な視点で考察できるようになることを目指す。
--------	--

■学習の要点	この科目における学習の要点は以下の通りである。 1.臨床心理学における多様な研究法を知る。 2.臨床心理学における研究の意義と課題について考察する。
--------	--

■学習の到達目標	①テキストを読み込み、深く理解すること。その理解度に関しては50点を上限として評価する。 ②自分自身の考えを論理的に構成しているかどうかを、50点を上限として評価する。
----------	--

■成績評価の基準	テキストを正しく理解している：50%、自身の意見を明確かつ論理的に展開している：50%
----------	---

授業科目	生涯発達心理学特論 1			単位	2.0
担当者	石岡 千寛	シラバスグループ		THE310	
開講年度	2025	履修方法	T	設題数	1

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
生涯人間発達論：人間への深い理解と愛情を育むために〔第3版〕	服部祥子著	医学書院	9784260041331
発達心理学：周りの世界とかわりながら人はいかに育つか〔第2版〕	藤村宣之編著	ミネルヴァ書房	9784623084630

■授業の概要

生涯発達心理学の視点をふまえ、各ライフステージの発達の課題とその危機について考える。|この科目では、特に乳児期、幼児期、学童（児童）期、青年期の発達を考えていく。

■学習の要点

エリクソンのライフサイクル理論を含め、生涯発達心理学の基礎知識を学習し、理解する。|この科目では、特に乳児期、幼児期、学童（児童）期、青年期の発達を考えていく。

■学習の到達目標

ヒトの成熟過程である乳幼児期から青年期までの各時期における心身の発達を理解する。|その時期の特徴的な心理発達の課題を達成できなかった場合において生じる危機（問題）を考察できる。|心理発達の危機（問題）を生じている子どもに対する、サポートや介入方法を考える。

■成績評価の基準

学習目標を到達できているかどうかで評価する。|具体的には、|①乳幼児期から青年期までの各時期における発達の課題を理解しているか。|②その時期の特徴的な発達の課題を達成できなかった場合において生じる危機（問題）を考察できているか。|③心理発達の危機（問題）を生じている子どもに対する、サポートや介入方法を適切に考えられるか。

授業科目	生涯発達心理学特論2			単位	2.0
担当者	中道 泰子	シラバスグループ		THE320	
開講年度	2025	履修方法	T	設題数	1

■テキスト					
書名	著者	出版社		ISBN	
母性の喪失と再生	東山弘子著	創元社		9784422113500	

■授業の概要	人は生まれてから死に至るまでどのように発達するのか。それぞれのライフステージにおける発達課題を理解した上で、人生の転回点となる「中年期」に焦点をあて、創造的生き方への変容過程についての思索を深める。
---------------	---

■学習の要点	心理臨床の視座をふまえて、「個人」の危機と再生のプロセスの理解につとめること。
---------------	---

■学習の到達目標	老いることの意味を多面的に理解することを通して、生涯発達への理解を深める。
-----------------	---------------------------------------

■成績評価の基準	・向老期にみられる様々な変化が、アイデンティティ確立に及ぼす影響と対応についての論述を評価する。 ・臨床心理学的視点からの多面的な理解がなされているか、自分の考えを深められているかを評価する。
-----------------	--

授業科目	認知心理学特論			単位	2.0
担当者	免田 賢	シラバスグループ		THE330	
開講年度	2025	履修方法	T	設題数	1

■テキスト			
書名	著者	出版社	ISBN
認知行動療法の科学と実践	David M.Clark ほか編	星和書店	9784791105021

■授業の概要	<p>近年、臨床現場はもちろん日常でもよく知られるようになった「認知療法」の技法について、その理論的基盤を学ぶことに重点をおきたい。単なる臨床技術だけでなく、その背景理論を知らなければ、応用することは難しい。また、「行動療法」と「認知療法」が理解できなければ、「認知行動療法」も理解できない。認知と行動との関係について知り、支援対象者に対してどのように適用されるのか、その技法についても知識を持ってほしい。近年、第3の行動療法として認知から離れる動きもあるので、そのことについても調べてほしい。</p>
--------	---

■学習の要点	<p>認知行動療法はエビデンスベースの考えに基づく。「力動的心理療法」との違いを理解し、科学的実証的な（evidence-based）視点での心理療法の理解を深めることが前提である。行動療法、認知行動療法のテクニカルタームの意味を理解すること。また、余裕があれば、「学習心理学」の本で、学習理論の基本を学んでおくことが大切である。</p>
--------	---

■学習の到達目標	<p>十分、テキストや参考書を読み、質問ができるぐらいに学習を深めておくこと。答えは、当然であるが、解答者の独自の私見も加わっていること。</p>
----------	---

■成績評価の基準	<p>設定課題の適切性、論拠や引用文献の充実度、そして論理展開の明瞭さを成績評価の対象とする。さらに、自分自身の意見のオリジナリティがあれば、高く評価する。</p>
----------	--

授業科目	犯罪心理学特論			単位	2.0
担当者	谷本 拓郎	シラバスグループ		THE410	
開講年度	2025	履修方法	T	設題数	1

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
司法・犯罪心理学	藤岡 淳子	有斐閣	9784641184510

■授業の概要	<p>司法・犯罪の分野においても多くの心理臨床家が非行少年や成人犯罪者と向き合い、彼らの更生に向けた地道な働きかけを行っている。この科目では、犯罪・非行の基礎理論とともにパーソナリティ要因、発達障害、家族関係、学校・職場・地域などが犯罪・非行の生起とどのように関連しているかを学ぶとともに、犯罪者・非行少年の処遇システムの実際やアセスメントや治療教育の現状について学ぶことを主眼としている。 本テキストの前半部分では、犯罪・非行理論などこれまでの実証的研究によって明らかにされてきた多くの知見を学び、後半部分では、犯罪・非行分野における心理的援助の実際などについて学ぶ。</p>
--------	--

■学習の要点	<p>この科目における学習の要点は以下のとおりである。 1 犯罪・非行に関する理論を学ぶとともに、犯罪者・非行少年に対してどのような処遇が行われているかを理解する。 2 犯罪・非行領域において臨床心理学の知見がどのように応用され活かされているかを学ぶ。</p>
--------	--

■学習の到達目標	<p>(1) 犯罪者・非行少年の処遇システムの流れ及び関係機関の役割とその機能を的確に説明できる。 (2) 犯罪・非行の各種理論を歴史的背景も踏まえて説明できる。 (3) 犯罪・非行領域において臨床心理学的知見がどのように活用されているかを説明できる。</p>
----------	--

■成績評価の基準	<p>到達目標に示した項目に対する到達度によって評価する。</p>
----------	-----------------------------------

授業科目	家族臨床心理学特論			単位	2.0
担当者	荒井 真太郎		シラバスグループ	THE430	
開講年度	2025	履修方法	T	設題数	1

■テキスト					
書名	著者	出版社	ISBN		
家族関係を考える（講談社現代新書 590）	河合隼雄	講談社	9784061455900		

■授業の概要	<p>（※この科目はテキスト＋スクーリングの両方を含み、シラバスはテキスト部分を提示している） 個人のパーソナリティの発達に関して、家族がどのような機能を果たすかということについて考える。家族のライフサイクルの観点から、家族を離れて自立した後、結婚や出産により、親となって新たに家族を形成することについて、家族心理学の観点から、親への心理的支援について考察する。また、深層心理学や力動的心理学の立場からの心理療法事例からも、心理発達の問題に関わる家族の問題について考察する。</p>
--------	---

■学習の要点	<p>カウンセリングや心理療法において、クライアントの問題、背景となる環境的要因、パーソナリティを考える上で、過去から将来にわたるクライアントの家族のあり方、家族との関係を理解することが非常に重要である。家族の問題は、心理学のみならず、社会学、社会福祉学、法学、民俗学、教育学など様々な領域において取り上げられており、学際的な分野である。当科目においては、心理的援助を求めているクライアント理解に資するための家族集団について学ぶこと、また、子育て支援や教育現場という地域社会における実際上の援助的アプローチについて学ぶことがポイントである。</p>
--------	--

■学習の到達目標	<p>心理発達上の問題を家族心理学の理論に基づいて論述することができること。実際的な支援のアプローチをイメージしながら論述できること。</p>
----------	---

■成績評価の基準	<p>・テキスト以外の文献にもあたって、青年期における家族からの自立、家族のライフサイクルに関する一般的な理論、親への支援についての理論について考察していること。 ・一般論だけではなく、具体的な支援や課題に取り組んだ経験を例に挙げて考察していること。</p>
----------	---

授業科目	人間関係学特論			単位	2.0
担当者	藤岡 勲		シラバスグループ	THE450	
開講年度	2025	履修方法	T	設題数	1
■テキスト					
書名	著者	出版社	ISBN		
産業保健心理学	島津明人編著	ナカニシヤ出版	9784779512063		
■授業の概要	産業・労働分野における実践活動は、これまでも心理援助職が活躍してきた分野であるが、社会状況の変化にともない、今後益々、重要な役割を担うことが予想される。本科目では、産業・労働分野で実践活動を行う上で主要となるテーマに加え、重要となる理論や支援のあり方等について学ぶ。				
■学習の要点	この科目の学習の要点は、下記の通りである。 (1) 産業・労働分野において実践活動を行う際に把握しておくことが求められる主要トピックについて理解する。 (2) 産業・労働分野において実践活動を行う際に参照枠となる理論について理解する。 (3) 産業・労働分野における実践活動の特徴を理解する。				
■学習の到達目標	(1) 産業・労働分野において実践活動を行う際に把握しておくことが求められる主要トピックについて説明できる。 (2) 産業・労働分野において実践活動を行う際に参照枠となる理論について説明できる。 (3) 産業・労働分野における実践活動の特徴を説明できる。				
■成績評価の基準	到達目標に示した項目に対する到達度によって評価する。				

授業科目	精神医学特論			単位	2.0
担当者	鈴木 康広	シラバスグループ		THE510	
開講年度	2025	履修方法	T	設題数	1

■テキスト			
書名	著者	出版社	ISBN
看護のための精神医学[第2版]	中井久夫ほか著	医学書院	9784260333252

■授業の概要	公認心理師に求められる22「精神疾患とその治療」に関する3項目をマスターする。
--------	---

■学習の要点	1) 精神疾患総論 2) 向精神薬をはじめとする薬剤による心身の変化 3) 医療機関との連携
--------	--

■学習の到達目標	医療領域などで必須な精神医学的基礎知識を獲得すること。
----------	-----------------------------

■成績評価の基準	出題の要点を正しく理解し、論理的に論じられていること。論述の展開と、その深度により評価する。
----------	--

授業科目	障害心理学特論			単位	2.0
担当者	免田 賢	シラバスグループ		THE530	
開講年度	2025	履修方法	T	設題数	1

■テキスト			
書名	著者	出版社	ISBN
自閉症スペクトラム障害の 子どもの親となったあなた へ 子育ての手引き	リン・アダムズ著／川合紀 宗訳／若松昭彦訳	北大路書房	9784762829536
発達障害の「本当の理解」と は	市川宏伸編著	金子書房	9784760895427

■授業の概要	発達障害、特に自閉症スペクトラム障害を中心に、注意欠如多動性障害、学習障害（限局性学習症）への行動・心理支援を学ぶ。
--------	--

■学習の要点	近年、特別支援教育の視点より、障害をもつ人、障害をもっていることが明らかでない人を含めて、個別の具体的な支援が求められている。様々な人間観や、発達観に立つにしても、日々接する発達障害をもつ人々に具体的な心理面の援助や、行動的支援をおこない、陥りがちな困難への環境の工夫が必要である。そのためにも、発達に障害のある人の基本的認知特性や社会性、コミュニケーションの困難、心理特性を踏まえた上で、それらの人々が生きる中心的环境で、生活を豊かにする視点が重要ではないだろうか。厳密には我々自身が、発達の能力的アンバランスとギャップをもっており、そこから発想されるスキル獲得の視点は、心理面のみならずその人の社会的あり方を大きく変化させうる。多専門領域の中で、臨床心理学的専門技術をどう発揮していくか、学習を行ってほしい。
--------	--

■学習の到達目標	自閉症スペクトラムという考え方を軸に、行動療法、TEACCH プログラム、をはじめとする様々な援助技術を学習する。
----------	---

■成績評価の基準	設定課題やテーマの適切性や、着眼点、をまず評価する。次に、引用文献の豊富さや根拠文献とその主張の明確さを評価する。 なお、論旨の一貫性と、主張の根拠やロジックを重視する。オリジナルな体験や意見がどれだけ述べられているか、臨床的な着眼点を持っているかも評価する。
----------	--

授業科目	学校臨床心理学特論 1			単位	2.0
担当者	牧 剛史	シラバスグループ		THE610	
開講年度	2025	履修方法	T	設題数	1
■テキスト					
書名	著者	出版社	ISBN		
学校臨床心理学（臨床心理学全書 12）	倉光修編	誠信書房	9784414413328		
■授業の概要					
	心理臨床実践の現場は、学校教育現場、医療現場など多様であるが、その中の「学校現場での心理臨床活動」に焦点を当てるのが学校臨床心理学である。この科目では、学校臨床心理学の概念、業務の内容や歴史、倫理などの基本的知識を修得し、スクールカウンセリングについての理解を深めることを目指す。				
■学習の要点					
	学校臨床心理学を学ぶためには、以下の要点をおさえる必要がある。 1.学校教育の歴史を知る 2.学校臨床の歴史を知る 3.「教育の視座」と「臨床の視座」の共通点および相違点を考察する 4.スクールカウンセラーの仕事について知る 5.今後の学校臨床のあり方について考察する				
■学習の到達目標					
	「レポート学習の留意点」にあることについてテキスト、文献講読を通して思索を深めることが大切である。このことがどこまで理解され、達成されているかが成績評価に反映される。				
■成績評価の基準					
	テキストを正しく理解している：50%、自身の意見を明確かつ論理的に展開している：50%				

授業科目	投映法特論			単位	2.0
担当者	松瀬 喜治	シラバスグループ		THE630	
開講年度	2025	履修方法	T	設題数	1

■テキスト			
書名	著者	出版社	ISBN
臨床場面における描画法	松瀬 喜治	佛教大学通信教育部	9784907177782

■授業の概要	投映法の中で代表的なロールシャッハ法（臨床心理査定演習2）の習得を基本にして、描画法を中心とした投映法の実践的活用能力の醸成が当科目の主要な目標である。 テキストの事例を通して、投映法と心理療法の関連性を受講者の経験・個性を生かしながら習得し、自身の心理臨床的なアイデンティティの形成を促進することも目指したい。
--------	--

■学習の要点	臨床場面における描画法に関して、事例を通して実践的な学習を深める。 ①心理検査と心理療法における投映（投影）の概念を明確化する。 ②投映法の中で、心理臨床の実践に適用しやすいイメージ技法（とくに描画法）に関する有用性の習得を目指す。 ③自身の心理臨床実践者のスタイル・オリエンテーションを確認・自覚する機会とする。
--------	---

■学習の到達目標	解答は最低限テキスト学習の範囲内で記述すればよいが、自身の臨床実践の経験からの論述が含まれていること、そして、心理療法と心理検査(投映法)との関連性についても触れることが望ましい。
----------	--

■成績評価の基準	1 論文としての形式が整っているかという視点。引用・参考文献の記入の仕方。文献欄の記入方法など。 2 文献に基づく論理的文章で記述されているかという視点。 3 自身の実践的な経験に基づく論述がされているかという視点。 4 全体的に説得力のある論文に仕上がっているかという視点。
----------	--

授業科目	文学研究基礎			単位	2.0
担当者	有田 和臣・大井 さき・清川 祥恵		シラバスグループ	TMA010	
開講年度	2025	履修方法	T	設題数	1

■テキスト			
書名	著者	出版社	ISBN
文学研究基礎 第2版	佛教大学大学院文学研究科 文学専攻編	佛教大学	9784907177997

■授業の概要	<p>本科目は、テキストに収録された個々の論文によって本専攻における研究の具体例を示し、日・中・英の3学系における言語・文学研究の共通性および所属学系以外の学系に特徴的な研究分野・研究方法を学修する。受講生は後者についてのレポート作成を通して、今後の研究と修士論文作成のために幅広い知識と視野を獲得することが可能となる。</p>
--------	--

■学習の要点	<p>文学専攻の3学系にわたる諸分野の研究手法や資料の扱い方などを、その具体例としてテキストに収録された論文から学習することによって、言語と文学研究に対する知識と視野を広げ、今後の主専攻分野における研究のための基盤を形成する。</p>
--------	---

■学習の到達目標	<p>到達目標は、主専攻以外の分野の研究について基礎的な知識を得て、今後の主専攻における研究のために、研究者としての視野の広さを獲得することです。</p>
----------	---

■成績評価の基準	<p>対象論文を的確に理解しているかどうか、その上で「論評」できているかどうかを重要視します。また自らの考えを示す際に的確な理由根拠を示しているかどうかも重視します。</p>
----------	---

授業科目	日本文学特殊研究 1			単位	2.0
担当者	神原 勇介		シラバスグループ	TMA110	
開講年度	2025	履修方法	T	設題数	1

■テキスト					
書名	著者	出版社	ISBN		
源氏物語を読む	高木 和子	岩波書店	9784004318859		

■授業の概要	源氏物語の登場人物たちが、どのような主題を荷って、物語世界を生きているのかを、作品の原文や表現を正確に緻密に読むことによって考える。
--------	--

■学習の要点	テキストの内容を検証しながら、他の考え方、見解にも考慮して、自身の考えを組み立てることが、必要である。
--------	---

■学習の到達目標	源氏物語の光源氏をはじめとした、主要な人物たちが、物語全体の主題に組み込まれながら、個々一人一人がまた独自の人生を与えられ、主題を持っていることを抑えつつ、学習すること。作品の原文と表現に敏感になって読み、考える姿勢を確立する。
----------	--

■成績評価の基準	テキスト内外に亘って学習しているか。 日本の古典文学に関して積極的な関心・問題意識を持っているか。
----------	---

授業科目	日本文学特殊研究2			単位	2.0
担当者	浜畑 圭吾		シラバスグループ	TMA120	
開講年度	2025	履修方法	T	設題数	1
■テキスト					
書名	著者	出版社	ISBN		
平家物語への羅針盤	武久堅	関西学院大学出版会	9784862833419		
■授業の概要					
	<p>平安末期から鎌倉初期にかけての源平の興亡を描いた軍記文学『平家物語』には多くの諸本があり、その内容の差も大きい。比較的古態を示す本文が見られるとされる延慶本（えんぎょうぼん）は延慶2年（1309）、延慶3年（1310）に紀州根来寺で書写されたものであり、応永26年（1419）、27年（1420）に再度写されたものである。頼朝を賛嘆する文章で終わる特異なこの本は、長く『平家物語』研究の中心を占めてきた。当科目では、そうした『平家物語』の諸本に注目しつつ、その成立について考えてみる。</p>				
■学習の要点					
	<p>『平家物語』は中学校、高等学校の教科書等でとりあげられる、馴染みのある題材であるが、多くは語り系諸本と呼ばれる諸本の一本で読解されている。そうした諸本の多さが煩瑣な印象を与え、敬遠される向きもあるが、古典文学中有数の諸本はそれだけ多くの人々に読まれ、写されてきたということであり、諸本間の差が大きいということはそうしたヴァリエーションを許容する余地が多くあったことを示している。すなわち諸本の多さこそが『平家物語』の魅力のひとつであると言える。当科目ではこれまでの諸本研究史を踏まえ、延慶本というヴァリエーションがどのような『平家物語』を指向したのか、諸本における延慶本の位置づけはどのようなものかといったことの理解を目標とする。</p>				
■学習の到達目標					
	<p>①『平家物語』について学び、様々なヴァリエーションが存在することを理解する ②諸本間の相違に注目し、それぞれの生成基盤、解釈の相違などを理解する ③注釈、諸本比較等、文学研究の基礎を理解する</p>				
■成績評価の基準					
	<p>根拠を示して論述しているかどうかというところを重視する。感想文に陥らないよう留意してほしい。その上で、従来の文学観や見解にとらわれず、自由な論述を期待する。</p>				

授業科目	日本文学特殊研究3			単位	2.0
担当者	坂井 健	シラバスグループ		TMA130	
開講年度	2025	履修方法	T	設題数	1

■テキスト			
書名	著者	出版社	ISBN
没理論戦争とその影響	坂井 健著	思文閣出版	9784784218349

■授業の概要	文献のあつかい方、注釈、読解、問題設定の方法など、近代文学研究に必要な基本知識の実際、および、基本的な古典文法おさらいをおこなう。
--------	---

■学習の要点	テキストとでは、先行研究のまとめと問題点の指摘、原文の引用と解釈によってあらたな見方を示しているが、これを追体験して批判的に考える能力を養うことを目的とする。
--------	---

■学習の到達目標	学習の要点で述べられた能力を身につけるように。
----------	-------------------------

■成績評価の基準	学習の要点に述べられた能力が身についているかどうか、それらを具体的に示すことができているかどうかを基準とするが、注などの書誌情報が欠けている場合は減点する。
----------	--

授業科目	日本文学特殊研究 4			単位	2.0
担当者	日高 佳紀	シラバスグループ		TMA131	
開講年度	2025	履修方法	T	設題数	1

■テキスト					
書名	著者	出版社	ISBN		
〈学問史〉としての近代文学研究—「はじまり」の位相	中山弘明	ひつじ書房	9784823412394		

■授業の概要	日本近現代の個人作家全集の歴史と問題点について検討する。日本近現代文学研究において、個人作家全集は必要不可欠である（なかには全集の出版されていない近現代作家もいるが）。個人作家全集は、その作家の書いたほとんどの文章が読めるばかりでなく、その時点での研究成果が反映されている。また、出版後の研究の礎となるものでもある。テキストを通じてそのことを理解した上で、各自の研究において個人作家全集を活用できるようになるのが授業の目的である。
---------------	---

■学習の要点	個人作家全集が刊行されることによって、どのように文学作品の本文が変遷し、そのことが作家イメージや研究にどう影響を与えているかを考察する。また、テキストをもとに、各自が関心のある作家の全集はこれまでどのように変遷し、そこにはどんな問題点があるかを把握する。
---------------	---

■学習の到達目標	テキスト読解およびレポート作成を通じて学習したことが自分の研究に活用することが目標。
-----------------	--

■成績評価の基準	各自の研究対象とする全集の歴史が整理できていること、それぞれの全集の特徴や問題点を把握できていること、研究における全集の役割や活用方法が理解できていること、自分なりの全集に対する考えがきちんと示されていること。以上を各 25 点ずつとする。
-----------------	--

授業科目	中国文学特殊研究 1			単位	2.0
担当者	大井 さき		シラバスグループ	TMA210	
開講年度	2025	履修方法	T	設題数	1

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
杜甫詩選（岩波文庫）	黒川洋一編	岩波書店	9784003200490

■授業の概要

唐の詩人、杜甫の詩と生涯の概略を把握する。

■学習の要点

テキストに収録された詩は、1500 首ほど残る杜甫の詩の 1 割程度ですが、その全貌を知るための初歩的段階としては十分な作品数と言えるでしょう。杜甫の生涯を 4 つに分け、各時期の代表的と思われる詩を収める体裁になっています。学習に当たっては、一首一首をよく読んで、自分なりに味わってください。日本語訳のみ見るのではなく原文とも照らし合わせ、気になる表現については注釈を参照してください。その上で、巻末の「略年譜」と「解説」を参考にして、各時期の作品の傾向について自分なりに把握するよう努めてください。

■学習の到達目標

テキストを読んで杜甫の詩のおおまかな姿を把握することが目標です。

■成績評価の基準

作品を引用しつつ、具体的に論述していること。

授業科目	中国文学特殊研究3			単位	2.0
担当者	瀬邊 啓子		シラバスグループ	TMA221	
開講年度	2025	履修方法	T	設題数	1
■テキスト					
書名	著者	出版社	ISBN		
中国当代文学史 建国より 20世紀末までの作家と作 品 文学思潮を軸にして	鄭万鵬 著/中山時子 ほか 訳	白帝社	9784891746025		
■授業の概要					
		テキストの内容に従い、中国当代文学の概況を把握したうえで、とくに文革終息以後に始まる新時期文学を中心にしながら、いかに中国文学が変化してきたのかを読み解いてゆく。			
■学習の要点					
		テキストをしっかりと読み、中華人民共和国建国以降の文学の大まかな流れを把握するようにしてください。			
■学習の到達目標					
		中国文学とくに新時期文学以降の流れを把握できるようになる。			
■成績評価の基準					
		テキストの内容を正確に把握しているかどうか。引用や参照が正しく示されているかどうか も評価いたします。			

授業科目	中国語学特殊研究			単位	2.0
担当者	劉 赫洋		シラバスグループ	TMA230	
開講年度	2025	履修方法	T	設題数	1

■テキスト			
書名	著者	出版社	ISBN
中国語学研究Ⅰ・Ⅱ: 学習の手引	黄當時	佛教大学通信教育部	9784907177911
中国語学研究Ⅰ: 漢語漢字答問	黄當時	佛教大学	9784907177638

■授業の概要	漢字における諸問題を考察する。
--------	-----------------

■学習の要点	正確な発音でテキストを読み、形声字の形符・音符についての理解を深める。
--------	-------------------------------------

■学習の到達目標	形符と音符の機能や特徴について理解を深める。未習得の場合、少なくとも GB 漢字第一級 (3,755 字) は、正確な発音で読めるようにする。
----------	---

■成績評価の基準	基本的な事項を押さえているか、具体的な例が示されているか、を重視して評価する。
----------	---

授業科目	中国思想特殊研究			単位	2.0
担当者	鶴飼 光昌	シラバスグループ		TMA240	
開講年度	2025	履修方法	T	設題数	1

■テキスト					
書名	著者	出版社	ISBN		
概説中国思想史	湯浅邦弘	ミネルヴァ書房	9784623058204		

■授業の概要	本科目では、六朝時代の東晋期を代表する僧侶・思想家、慧遠（334-433）の「沙門不敬王者論」を扱う。慧遠「沙門不敬王者論」を読み、慧遠がこの問題をどのように理解し解決しようとしたのかを、六朝思想史とも関連付けながら考察する。
--------	---

■学習の要点	慧遠は、沙門が王者を礼拝すべきかどうかに関して、桓玄の問いに答え、ついで「沙門不敬王者論」を著した。そこでは、沙門の拝礼王者の問題、さらには中国における王法と仏法との関係が論じられている。この問題について理解を深める。
--------	---

■学習の到達目標	バラモンが社会の最上層に属し、出家修行者を特別に尊崇するインドの社会とは異なり、中国においては基本的に仏法が王法の上に置かれたことはなかった。それにも関わらず、慧遠が、沙門は王者を礼拝する必要はないと結論づけたのはなぜか。そのことを理解することを目標とする。
----------	---

■成績評価の基準	テキストが熟読されているか、ポイントは正確につかまれているか、誤りはないか、明晰な記述がなされているか、を成績評価の基準とする。
----------	--

授業科目	英米文学特殊研究 1			単位	2.0
担当者	松本 真治	シラバスグループ		TMA310	
開講年度	2025	履修方法	T	設題数	1

■テキスト					
書名	著者	出版社		ISBN	
The Driver's Seat	Muriel Spark 著、島村馨編注	松柏社		9784881982600	

■授業の概要	<p>本科目ではミュリエル・スパーク (Muriel Spark) の<i>The Driver's Seat</i>を基本テキストとして取り上げ、作品の精緻な読みと解釈を試みる。 まずはテキストの精読から始め、作品解釈を行う。スパークの小説は英語が読みやすく、また分量も少ない。しかしながら作家自らが認めているようにスパークの小説にはどことなく詩のような雰囲気があり、短いながらもそこに秘められた意味は深い。スパークの小説はポスト・モダニズムに属するもので、一つだけの答えに向かって収斂される小説ではない。その意味では独自の解釈を考え出す余裕は十分にある。また、スパークは小説技法にこだわる作家であり、特にフラッシュフォワードの使用で有名である。</p>
--------	---

■学習の要点	<p>1) まずはテキストの精読。英語の原文を最低3回くらいは目を通すこと。翻訳も出版されているが、必ず原文を読むこと。 2) ストーリー展開だけではなく、小説の技法にも注意を払うこと。「フラッシュフォワード」とは未来の出来事が先取りされた形で挿入されること。フラッシュバックの逆。 3) 主人公 Lise の行動の意味については、テキスト内部で明確にされているわけではない。丁寧にテキストを分析してその答えを見つけだすか、テキスト外に論拠を求めることも必要。答えは一つではない。 4) 英語で論の要旨をまとめる。英語で要約文を作成するためには自身の考えが明確なものとなっていなければならない(日本語であれば何となく要約は書けてしまうが)。</p>
--------	--

■学習の到達目標	<p>1) <i>The Driver's Seat</i>を精読したうえで、技法や内容に関して分析ができる。 2) 各自の考えの要旨を英語でまとめることができる。</p>
----------	--

■成績評価の基準	<p>1) 論述の展開が評価の基準となる。 2) 英語要約では、英語の正確さも評価の対象となる。</p>
----------	--

授業科目	英米文学特殊研究2			単位	2.0
担当者	持留 浩二		シラバスグループ	TMA320	
開講年度	2025	履修方法	T	設題数	1

■テキスト			
書名	著者	出版社	ISBN
The Great gatsby (PMC)	F.Scott Fitzgerald	PENGUIN CLASSICS	9780141182636
グレート・ギャツビー(村上春樹翻訳ライブラリーf-2)	スコット・フィッツジェラルド	中央公論新社	9784124035049

■授業の概要	フィッツジェラルドによって書かれた古典的名作『グレート・ギャツビー』を精読して、その作品がもつ構造の重層性と文学作品を読むときの読み方の多様性を理解してもらおう。
--------	---

■学習の要点	文学研究をする上での基本的な知識とテクニックとを、フィッツジェラルドの『グレート・ギャツビー』について精読・分析するなかで、受講生に習得してもらおう。
--------	---

■学習の到達目標	文学作品を精読する作法を身につけて、研究論文を書くための視点と分析力とを、受講生が獲得することを到達目標とする。それとともに、小説をゆっくりと多角的に熟読玩味することが、いかにスリリングで面白いことかを実感してもらおうのも目標である。
----------	---

■成績評価の基準	まず第一にきちんと作品内容が理解できていること。 第二に、自分独自の解釈ができていること、さらにその解釈が独創的であればなお良い。 第三に客観的な論証ができていること。ただ単に自分の意見を書きつねるだけではなく説得力ある客観的な論証が大切である。
----------	---

授業科目	英語学特殊研究			単位	2.0
担当者	稲永 知世		シラバスグループ	TMA330	
開講年度	2025	履修方法	T	設題数	1

■テキスト			
書名	著者	出版社	ISBN
話し言葉の談話分析	林宅男監訳	ひつじ書房	9784894766181

■授業の概要	<p>談話（discourse）とは何か、「音」、「形態」、「統語」、「意味」などではなく、なぜ「談話」を分析するのかについての概要を学び、また同時に談話分析（discourse analysis）に対する下記のアプローチの基礎を学ぶ。 （1）話し言葉のエスノグラフィー（ethnography of speaking） （2）語用論（pragmatics） （3）会話分析（Conversation Analysis） （4）相互行為の社会言語学（interactional sociolinguistics） （5）批判的ディスコース分析（critical discourse analysis） 上記のアプローチに基づいて、実際の談話データを分析、考察する（日本語との比較も可）。</p>
--------	---

■学習の要点	<p>①レポート設題に取り掛かる前にテキストを熟読し、談話分析全般に関する理解を深めるように心がけること。 ②映画、ドラマ、ニュース等における使用例を自ら調べることにより、テキストで述べられている内容を確認するように心がけること。また、日本語との対照を行いながら、日英語の類似点および相違点についても考えるように心がけること。 ③本科目の参考文献、テキスト内の「さらなる学習のための参考文献案内」も積極的に活用しながら談話分析に関する知識を深めるよう心がけること。</p>
--------	--

■学習の到達目標	<p>談話（discourse）、つまり社会における言語使用を分析するためのアプローチを通じて、自然談話を分析・考察することができるようになる。</p>
----------	--

■成績評価の基準	<p>談話分析に関する知識が深まっているか、客観性のある根拠を示しながら自らの主張を論理的に説明することができるかについて評価する。</p>
----------	--

授業科目	英米言語文化特殊研究			単位	2.0
担当者	持留 浩二	シラバスグループ		TMA340	
開講年度	2025	履修方法	T	設題数	1
■テキスト					
書名	著者	出版社	ISBN		
ライ麦畑でつかまえてー The catcher in the rye	J・D・サリンジャー	講談社インターナショナル	9784770022479		
■授業の概要					
		J・D・サリンジャーによって書かれた古典的名作『ライ麦畑でつかまえて』を精読し、この作品に秘められた様々なメッセージを読み取り、文学作品を読むとはどういうことなのかを理解してもらう。			
■学習の要点					
		1) 原文の英語を正しく理解した上で、創造的な読みができるかどうか 2) 過去になされた様々な研究者による先行研究を踏まえた上で、自分の解釈を展開できるかどうか 3) 自分独自の解釈を、十分な説得力を持って、客観的に論証できるかどうか			
■学習の到達目標					
		1) 正しい書式でレポートや論文を書くことができる 2) これまで書かれた先行研究を読み、それらをまとめることができる 3) 自分独自の主張を説得力をもって客観的に論述することができる			
■成績評価の基準					
		1) 正しい書式で書かれているかどうか 2) 先行研究を読み、うまくまとめられるかどうか 3) 自分独自の意見が主張されているかどうか 4) 自分の主張が説得力をもって客観的に論述されているかどうか			

授業科目	英米作家研究 1			単位	2.0
担当者	松本 真治		シラバスグループ	TMA390	
開講年度	2025	履修方法	T	設題数	1

■テキスト			
書名	著者	出版社	ISBN
Emma (Oxford World's Classics)	Jane Austen 著 /James Kinsley 編	Oxford University Press	9780199535521

■授業の概要	<p>ジェイン・オースティン、『エマ』を精読し、テキスト分析の方法を学びます。中心となるのは、テキストに描かれた「人間観察」の問題です。この小説でも、オースティンは中産階級の日常生活を描いていますが、登場人物は必ずしも優れた「人物鑑識眼」の持ち主としては描かれていません。登場人物が（特に若い男女が）お互いの評価をどのように誤るのか、その誤解をどのように解くのか、そのプロセスは複雑ですが、そこにこそオースティン文学の面白さが発見できるのです。</p>
--------	--

■学習の要点	<p>『エマ』は欺瞞の物語です。登場人物は、相手の外見によって評価を誤り、一方で自分の外見を偽って、本来の自分とは異なった印象を持たせます。それによって期待や予想は裏切られ、誤った前提を元に行動を起こし、問題は複雑化します。この小説のプロットを織り上げるのは、このような「欺瞞」です。登場時人物はこうして幻想の中に生きるわけです。ここから生じる、考えと現実、期待と結果の乖離（対比）から劇的皮肉（dramatic irony）が生まれます。丁寧にテキストを読みながら、登場人物の考えと行動を分析していきましょう。</p>
--------	--

■学習の到達目標	<p>・ジェイン・オースティンの『エマ』の小説世界について解説することができる。 ・『エマ』について独自の論評を書くことができる。 ・英文で書かれた批評文を正確に日本語にすることができる。</p>
----------	--

■成績評価の基準	<p>テキスト読解力と日本語による表現力。</p>
----------	---------------------------

授業科目	英米作家研究2			単位	2.0
担当者	メドロック 皆尾 麻弥		シラバスグループ	TMA391	
開講年度	2025	履修方法	T	設題数	1

■テキスト			
書名	著者	出版社	ISBN
Melville's Short Novels (norton critical edition)	Herman Melville 著 /Dan McCall 編	W. W. Norton & Company, Inc.	9780393976410

■授業の概要	Herman Melville (ハーマン・メルヴィル：1819～1891) は、19 世紀アメリカ文学史上、Nathaniel Hawthorne とならぶ2大巨人である。Melville の代表作は長編 Moby Dick (『白鯨』、1851) であるが、短編にも興味ぶかいものがある。その短編の中から、“Benito Cereno” と “Bartleby, The Scrivener” とを精読して、傑作短編がもつ謎とその奥深さとを理解してもらって、その解釈の多様性を実感してもらう。
--------	--

■学習の要点	“Benito Cereno”では、Delano 船長との対比のなかで Cereno 船長に寄り添って精読しながら、Cereno 船長の心理状態について、分析考察して欲しい。 “Bartleby, The Scrivener”では、語り手の弁護士と Bartleby との関係に注目して読むことで、語り手の弁護士をとおして作家 Melville が読者に伝えたかったことを考えて欲しい。
--------	--

■学習の到達目標	19 世紀の偉大な短編小説が、どんなものであるのかをしっかりと理解して欲しい。最終的には作品の面白さを浮き彫りにするような論述が望まれる。 論述の方法と展開とその深度とによって評価する。
----------	---

■成績評価の基準	論述の方法が適切であるか、展開が論理的であるか、「感想文」らしさを排しているか、また、批評性という点について評価する。
----------	---

授業科目	日本語表現史研究			単位	2.0
担当者	土佐 朋子	シラバスグループ		TMA410	
開講年度	2025	履修方法	T	設題数	1

■テキスト					
書名	著者	出版社		ISBN	
詩歌の森 ー日本語のイメージ	渡辺秀夫 著	大修館書店		9784469221053	

■授業の概要	<p>言葉は、ただ単に事物を物理的に指し示すだけではなく、一定のイメージを伴って用いられる。それは人間が、「靈魂を運ぶ鳥」などのように、自然をはじめとするこの世の景物に対して、過剰に「意味」を見出すためである。 そのイメージは、言語文化ごとに形成・共有されるが、異なる言語文化に接触すると、その異なるイメージが受容され、発想と表現における「化学反応」が起こる。その蓄積がその言語文化における表現史となってゆく。 本授業では、まるで日本の伝統的なイメージであるかの如く理解されている身近な日本語のイメージが、中国文学を受容しながら変遷を遂げ形成されてきたものであることを理解する。</p>
--------	---

■学習の要点	<p>①テキストを熟読し、取り上げられた語句それぞれのイメージの変遷と形成過程とを理解する。 ②テキストに基づいて、和歌と漢文の比較対照の方法を知る。和歌や漢詩の取り上げ方、解釈の仕方、比較対照の方法を学ぶ。 ③自分自身で、和歌や漢詩を探し出す訓練をする。よく知られた和歌集や漢詩集を手にとって、読んでみるのがよい。回数を重ねるうちに、コツがつかめるようになるので、それまでは時間と手間をかけて、じっくりとコツコツ調べる。 ④必ずノートを作り、調べたことをメモしていく。</p>
--------	---

■学習の到達目標	<p>和歌に用いられる語句や表現が、漢籍を受容することによってどのように変容し、どのようなイメージを形成していくかということ、具体的に論じられるようになる。</p>
----------	--

■成績評価の基準	<p>テキストを十分に読んでいるかどうか、適切な和歌や漢詩が探し出せているかどうか、自分の言葉で具体的に論じられているかどうか、という点を評価の基準とする。</p>
----------	--

授業科目	現代中国研究			単位	2.0
担当者	李 冬木	シラバスグループ		TMA420	
開講年度	2025	履修方法	T	設題数	1
■テキスト					
書名	著者	出版社	ISBN		
中国当代文学史 一九四九 —八九	吉田富夫著	朋友書店	9784892811999		
■授業の概要					
<p>文学は「人間の心の窓」と呼ばれ、文学の世界では現実生活の中の真実をより本質的に把握することができる。本科目では「中国当代文学史」という視点から「現代中国」にアプローチし、1949年から1989年までの中国当代文学史の学習を通じて、この歴史段階、そして現在の中国の軌跡を理解する。 具体的には次のような内容である。 I 中華人民共和国成立と文芸統制[一九四九年] II 思想批判運動と胡風事件[一九五〇～一九五五年] III 〈双百〉期の文学[一九五六年] IV 反右派闘争と丁玲批判[一九五七年] V 文学者たちの苦闘[一九五八～一九六五年] VI 文化大革命[一九六六～一九七六] VII 新時期文学[一九七七～一九八九年] 附編 「人民」から国民へ</p>					
■学習の要点					
<p>(1) I～VII各章の「政治・社会状況」 (2) I～VII各章の理論主張と政治運動(批判なども含む) (3) I～VII各章の代表的作家・作品(作品梗概を中心に) (4) I～VII各章に見る文学者たちの運命 (5) 当代文学史に見る現代中国の政治・文化上の全体的な流れを把握すること</p>					
■学習の到達目標					
<p>(1) 文学・思想面において1949年以後の「現代中国」を理解する。 (2) 当代文学史に見る現代中国の政治・文化上の全体的な流れを述べられる。 (3) 各作品梗概を通じて当代作品に触れ、当代作品の知識を身につける。 (4) 歴史事実に基づいて、自分の見解をまとめる力を身につける。</p>					
■成績評価の基準					
<p>歴史的知識関連、30点 認識・観点・見解、30点 まとめ方(論点、論拠について論理的に構成しているか)40点</p>					

授業科目	日英対照言語学研究			単位	2.0
担当者	稲永 知世	シラバスグループ		TMA430	
開講年度	2025	履修方法	T	設題数	1

■テキスト			
書名	著者	出版社	ISBN
「視点」の違いから見る日英語の表現と文化の比較	尾野治彦著	開拓社	9784758925754

■授業の概要	日本語と英語の大きな違いは、どのように事態を把握するのかにある。 日本語の場合、「場面内視点」による「知覚体験的事態把握」が特徴的である一方、英語は「場面外視点」による「分析的事態把握」を特徴とする。 この違いにより、全く同じ事態に対して日英語における表現の違いが生まれる。日本語と英語のさまざまな表現を分析しながら、同じ事態を認識する方法の違いを考察する。
--------	---

■学習の要点	「場面内視点」による「知覚体験的事態把握」と「場面外視点」による「分析的事態把握」による認識方法の観点から、日本語と英語のさまざまな表現を分析する。
--------	--

■学習の到達目標	「場面内視点」による「知覚体験的事態把握」と「場面外視点」による「分析的事態把握」の概念を説明し、具体例をあげながら、日本語と英語を対照させて分析・考察することができる。
----------	---

■成績評価の基準	「場面内視点」による「知覚体験的事態把握」と「場面外視点」による「分析的事態把握」に関する知識が深まっているか、客観性のある根拠を示しながら自らの主張を論理的に説明することができるかについて評価する。
----------	--

授業科目	日本語文化研究			単位	2.0
担当者	岡村 弘樹		シラバスグループ	TMA610	
開講年度	2025	履修方法	T	設題数	1

■テキスト					
書名	著者	出版社	ISBN		
古代日本語発掘	築島裕	吉川弘文館	9784642071499		

■授業の概要	<p>日本はさまざまな面において中国の影響を受けており、日本語の歴史においても中国の影響を等閑視することはできない。特に古代日本語を研究する際には、物語や和歌、女流日記等に見られる「和文語」を調査するだけでは不十分であり、漢文に書き込まれた訓点から窺い知ることができる「漢文訓読語」（「訓点語」とも）にも目を向けなければならない。本科目は、訓点語とはいかなるものであるか、いかに調査されるのか、何故日本語の歴史的研究において欠かせないのか等について理解することを目的とする。</p>
--------	---

■学習の要点	<p>テキストは、元は1970年に出版されたものである。このテキストの概要や背景について把握するために、まずは沖森卓也氏による巻末の『『古代日本語発掘』を読む』から読むことを勧める。テキストはエッセイ的な文体や内容で書かれるが、訓点資料（古点本）の研究の実態や訓点語研究の基礎を知るには打って付けである。専門的に重要な情報が時にはまとめて書かれ、時には実際の調査の説明等の中で適宜書かれたりするので、本書全体をよく読んで内容の把握に努めること。</p>
--------	--

■学習の到達目標	<p>・ 訓点資料（古点本）や訓点語についての基礎的な知識を身に付ける。 ・ 日本語の歴史と訓点語の関係を理解する。</p>
----------	---

■成績評価の基準	<p>テキストの内容を十分に理解し、その成果を解答に適切に反映させること。</p>
----------	---

授業科目	中国近現代思想研究			単位	2.0
担当者	若杉 邦子	シラバスグループ		TMA620	
開講年度	2025	履修方法	T	設題数	1

■テキスト					
書名	著者	出版社		ISBN	
中国近代政治思想史入門 (研文選書 37)	横山宏章 著	研文出版		9784876360789	

■授業の概要	<p>本科目では、近現代中国において、各種の思想が複雑に絡み合って存在した状況について学習する。当時の混沌たる思想界の様相を整理するため、「救国意識の目覚め」「伝統思想への反感と葛藤」「国民国家の主体者形成」という“三本の軸”を意識し、多元的な視座から分析・把握に努める。テキストの各章では、おおよそ時間の経過に沿う形で歴史上の出来事や思想潮流が記述されているので、上記“三本の軸”について考えながらテキストを精読することにより、近現代中国の思想と文化に対する分析的理解を深めていく。</p>
--------	--

■学習の要点	<p>“三本の軸”たる「救国意識の目覚め」「伝統思想への反感と葛藤」「国民国家の主体者形成」といった各ムーブメントは、相互関連的であると同時に移行的でもある。それらの思潮がどのように関連し合い、かつ移行・進展していったか、混乱なく理解するためには、歴史的背景を常に確認しながらテキストを丁寧に読みこんでいくことが肝要である。</p>
--------	--

■学習の到達目標	<p>①「救国の熱望」「伝統への攻撃」「国民像の形成」という“三本の軸”について正確に理解できるようになる。 ② ①で得られた理解を通じ、近現代中国の思想や文化とその変遷が整理・分析できるようになる。</p>
----------	--

■成績評価の基準	<p>レポート（50%）と科目最終試験（50%）により評価する。</p>
----------	--------------------------------------

授業科目	英語教育研究			単位	2.0
担当者	ヘンリー・フォスター		シラバスグループ	TMA630	
開講年度	2025	履修方法	T	設題数	1

■テキスト			
書名	著者	出版社	ISBN
Asian English Language Classrooms (Routledge Research in Language Education)	Handoyo Widodo, Alistair Wood, Deepti Gupta	Routledge	9780367141783

■授業の概要	<p>Teaching a language involves navigating a complex array of interrelated factors and considerations. In addition to knowledge and mastery of the language itself, effective language teachers need awareness, knowledge, and skills related to classroom management, learner psychology, group dynamics, pedagogical approaches, social and cultural considerations, content and materials, and the constraints and demands of the educational context and curriculum in which they are participating. Of course good teachers also capitalize on their experience gained through actual practice, but even for veteran teachers (or perhaps especially for veteran teachers) it is vital to continue reflecting critically on one's practice, and to constantly seek new knowledge, ideas, and approaches. The art of teaching can never be perfected, but it can always be improved. In this course we will read chapters written by educators and researchers working in Asian ELT classrooms, with various perspectives grounded in various theoretical orientations, and consider ways in which these relate to the current state of English education in Japan.</p>
--------	---

■学習の要点	<p>In this course, you should strive to: (1) understand and be able to explain the approaches and issues introduced in the text; (2) relate the approaches and issues in the text to the current situation in Japanese education, especially in the context in which you teach, will teach, or have taught (elementary, junior/senior high, university, language school, etc.); (3) clearly express your ideas and understanding in English.</p>
--------	--

■学習の到達目標	<p>Students will be able to: (1) Understand and explain the approaches and issues introduced in the text. (2) Relate the approaches and issues in the text to the current situation in Japanese education. (3) Clearly express their ideas and understanding in English.</p>
----------	--

■成績評価の基準	<p>Your grade will be based on how well you have: <ul style="list-style-type: none"> ● shown an accurate understanding of the chapter topics ● expressed your own thinking about the topic ● meaningfully and objectively related the chapter contents to a specific teaching context in Japan ● expressed your ideas in clear English </p>
----------	---

授業科目	書道文化研究			単位	2.0
担当者	松宮 貴之		シラバスグループ	TMA640	
開講年度	2025	履修方法	T	設題数	1

■テキスト					
書名	著者	出版社	ISBN		
新編 書論の文化史	松宮 貴之	雄山閣	9784639030188		
書人 郭沫若	松宮 貴之	武蔵野書院	9784838610167		

■授業の概要	<p>古来、中国では、教養人の中で書をよくすることは必須の条件とされ、また能書の人は尊敬されてきた。そして、日本でも、古く漢字を輸入して用い、また漢字から仮名を作って用いてきたが、やはり手跡の美しいことは尊ばれてきたのである。本科目は、主に中国書道史の中から、個々の研究テーマを取り上げる。書論・金石学・法帖学・篆刻学・題跋・文房四宝など、幅広く、文化としての書を理解させ、広い視野から書を追究しうる人材の養成を目指す。</p>
--------	--

■学習の要点	<p>基本的な中国書道史の教養を身に付けるとともに、専門的な研究方法の習得を目的とする。</p>
--------	--

■学習の到達目標	<p>専門的な中国書道史研究の基礎固めを行う。</p>
----------	-----------------------------

■成績評価の基準	<p>研究史の把握と明解な論旨。</p>
----------	----------------------

授業科目	歴史学研究基礎2			単位	2.0
担当者	貝 英幸	シラバスグループ		TQA020	
開講年度	2025	履修方法	T	設題数	1

■テキスト					
書名	著者	出版社		ISBN	
なぜ歴史を学ぶのか	リン・ハント	岩波書店		9784000241793	

■授業の概要	<p>本科目は、歴史学研究基礎1の学修を基礎としながら、歴史学の研究動向および研究の現状を学びながら、歴史学が担っている学問的・社会的な役割を理解することをねらいとする。特に、文献史学のみならず「モノ（事物）」を資料として用いる歴史文化研究についても学ぶことにより、歴史学はもとより人文科学全般に及ぶ学問的な枠組みを理解し、近接分野の手法や議論についても理解を深めたい。</p>
--------	---

■学習の要点	<p>これから皆さんが行なおうとする研究は、高度な学術的行為ではあるものの、それはやみくもに詳細に踏み込むことでも、盲目的に広がりを求めることでもない。研究の開始にあたって、自らの研究対象となる事象（事物）を明らかにしようとする時、いかなる方法が考えられ、そのなかで最も適した方法は何なのか、自らが明確な意志と裏付けのもとそれを選び取る必要がある。科目の概要において「本科目のねらい」として記した「歴史学の研究動向および研究の現状を学びながら、歴史学が担っている学問的・社会的な役割を理解すること」は、まさにその点について皆さん自身の思考を促す意図で記されている。 多くの学問分野と同様に、歴史学研究にも研究の目的があり、それらは時代とともに変遷してきた。また、研究の進展とともに歴史学の研究方法自体も変化してきている。まずはそうした歴史学研究が辿ってきた道程を知り、どのような研究方法があるのかを理解する必要がある。そのうえで自らが研究の対象にしようとする事象（事物）が、これまでどのように理解されてきたのかを把握しながら、自らはそれらにどう向き合おうとするのかを考えて欲しい。</p>
--------	---

■学習の到達目標	<p>1) 歴史学の研究動向を概括し、研究の現状を理解する。 2) 歴史学と関連諸学の関係を理解する。 3) 最先端の研究法を知り、自らの視点・視角構築の参考とする。</p>
----------	---

■成績評価の基準	<p>1) 戦後歴史学の歩みと歴史学の研究動向についての概括的に理解できているか 2) 歴史学と関連諸学の関係について理解できているか 3) 最先端の研究法と自らの視点・視角の関連について考えられているか</p>
----------	--

授業科目	基礎外国語文献研究			単位	2.0
担当者	水田 大紀	シラバスグループ		TQA030	
開講年度	2025	履修方法	T	設題数	1
■テキスト					
書名	著者	出版社	ISBN		
対訳 シンプルな英語で話す日本史	ジェームス・M・バーダマン	ジャパンタイムズ	9784789015943		
■授業の概要					
英語圏で発表された日本史の主な研究成果を集成したテキストから、学問的価値が高く、重要な論点を提示しており、和訳がないものを選択して講読を行なう。					
■学習の要点					
(1) テキスト学習では、日本の地理・歴史に関する用語や英文表現などに習熟することを目標として、テキストを反復学習してください。テキストの内容を基にして最終試験の問題が出題されます。 (2) リポートは、テキスト学習の応用として、実際の専門ジャーナルに掲載されている学術的文章(書評)の和訳を、下記の要領で行ってください。					
■学習の到達目標					
①テキストの正確な解釈: 外国語としての英文の理解程度だけではなく、歴史研究としてのコンテキストを如何に正確に把握するのか。 ②歴史的背景と論点の理解: 当該論文が取り上げている時代・事柄について調査を行ない、他の研究成果との差異や論点など、研究史上の意義を探る。 ③学術用語、もしくは歴史用語の独特な用法を学習する。					
■成績評価の基準					
【科目最終試験における成績評価の基準】 (1) 英語の歴史用語や学術用語を理解して、日本語訳されているのか。 (2) 書評の内容を充分理解して、その文意を活かした日本語訳になっているのか。					

授業科目	基礎文献研究			単位	2.0
担当者	佐古 愛己	シラバスグループ		TQA040	
開講年度	2025	履修方法	T	設題数	1

■テキスト					
書名	著者	出版社		ISBN	
京都の中世史 1 摂関政治から院政へ	美川 圭・佐古 愛己・辻 浩和	吉川弘文館		9784642068604	

■授業の概要	<p>歴史学研究において、いかなる視点で対象とする時代を分析するのか、またどのような史料に基づき論証するのかは、極めて重要な問題である。なかでも、現代社会とはさまざまな点で大きく異なる日本の前近代の政治・社会・文化・思想を研究するためには、その時代のさまざまな事象や当時の人々の考え方に触れ、そのなかで文字史料を正確に読解する必要がある。 本科目では、日本の古代から中世への過渡期（平安後期・院政期）を事例に取り上げ、いかなる視点から、どのような史料に着目して歴史研究が行われているのかを考える。さらにそれを通じて、各々の歴史学研究の方法や視点を考える契機とすることを目指す。</p>
--------	---

■学習の要点	<p>歴史学研究における研究課題、視角、方法を知るとともに、どのような史料を用いて分析し、歴史像を構築するのか、その方法を学び、自ら歴史像を構築する力の涵養を目指します。 まず、テキスト各章の概要をまとめ、そのうえで全体を通して本書が明らかにした内容を論述してください。さらに、日本の古代から中世への過渡期（院政期）の時代的特色・特質とは何かを考えてください。 テキストの内容を適切に理解するためには、専門的な歴史用語や人名などの理解が不可欠です。辞典類（『国史大辞典』、『日本国語大辞典』等）をこまめに引いて、熟読してください。また、古記録や日本中世史の理解を深めるため、参考文献も一点以上は熟読されることをお勧めします。</p>
--------	--

■学習の到達目標	<p>①歴史研究の分析・考察において必要とされる専門用語を理解して、専門書を読解できる。 ②日本の古代から中世への過渡期（院政期）の時代的特色・特質を説明できる。③文献史料を活用した歴史学の研究方法を習得し、史料を用いて歴史的な事象を自ら再構成することができる。</p>
----------	---

■成績評価の基準	<p>テキストの内容を理解し、設問の要求に対して的確に論述されているか。論旨が明確に述べられているかを評価します。ただテキストの概要を記すのではなく、テキスト以外の参考文献なども参照して、自身の意見・考察が加えられていること。 テキストや参考文献からの引用は、必ずレポートの参考文献欄に注や参考文献一覧として明記し、自身の意見や考察の部分と明確に書き分けること。誤字脱字、文体の不統一がないか、規定枚数（字数）が守られているか、論文の構成（章節）が適切か、などの点を総合的に評価します。</p>
----------	--

授業科目	歴史学特殊研究 1			単位	2.0
担当者	塚本 栄美子	シラバスグループ		TQA130	
開講年度	2025	履修方法	T	設題数	1

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
忘れ去られたマイノリティ 迫害と共生のヨーロッパ史	関哲行・踊共二著	山川出版社	9784634640825

■授業の概要

宗教改革をきっかけに宗派多元社会へと向かった近世ヨーロッパにおける、価値観をめぐる葛藤とその葛藤の中で苦境に立たされた人びとの現実について理解を深めます。そうすることによって、中世的な価値の崩れた近世ヨーロッパ社会の特質について考察します。また、キリスト教社会におけるムスリムやユダヤ人の存在について考察をすすめるなかで、現代の世界が抱える移民問題や多様性社会の在り方についても自分なりの意見が持てるようになることが期待されます。

■学習の要点

近世ヨーロッパ世界がどのような世界であったのか、とりわけ社会の中の他者あるいはマイノリティをめぐる問題について歴史的に考察し、自らの見解をもち、それを表現できるようになることが到達目標です。

■学習の到達目標

(1) ヨーロッパを一様なキリスト教社会ではなく、多神教的、民衆宗教的要素を多分に含んだ社会であることが理解できる。| (2) 近世国家や宗派化の流れのなかでさまざまな線引きがなされ、宗教的マイノリティが生まれたことが理解できる。| (3) 宗教的マイノリティの社会とマジョリティ社会は相互に影響しあっていることが理解できる。| (4) テキストを通じて (1) ~ (3) のことを理解し、説明することができる。| (5) 出題の意図や設題を理解し、それにそって論理的に明快な日本語でレポートを作成することができる。

■成績評価の基準

(1) 到達目標に記されている観点について、テキストの内容をきちんと理解していること。| (2) 問題の意図を把握して、正しい日本語で論理構成のある答案を作成していること。

授業科目	歴史学特殊研究 2			単位	2.0
担当者	寺嶋 一根	シラバスグループ		TQA140	
開講年度	2025	履修方法	T	設題数	1

■テキスト					
書名	著者	出版社		ISBN	
世論政治としての江戸時代	平川 新	東京大学出版会		9784130201605	

■授業の概要	<p>本科目テキスト著者の平川新氏（以下、著者）は、18世紀後半以降に変容していく江戸時代の社会システムを、世論政治・官僚制・公共圏などをキーワードに大胆に解釈して、独自の江戸時代像を提示している。序章は戦後歴史学の動向を著者自身の研究歴と重ね合わせて、丁寧にまとめられており、日本近世史を専門としない受講生にも有益である。本授業を、修士論文執筆に向けて、受講生自身の専門分野の戦後からの研究動向を振り返り、それをふまえたうえで独自の観点を醸成する一助として欲しい。</p>
--------	---

■学習の要点	<p>テキストは、江戸時代の社会システムをテーマに、権力と民衆の関係性、国家・権力の機能などについて、新たな見解を主張している点に特色がある。第1～4章では政治と民意の関係、権力の持つ調整機能がポイントとなる。第5章では近世官僚制が武士集団に独占されていたことの意味を考察しており、全章を通じて18世紀後半以降の江戸時代と近代国家や社会への接続を示している。序章と終章は研究課題の整理と成果、今後の展望が丁寧に整理されているため、1～5章でいかにその課題を論証しているのかを検討すること。</p>
--------	--

■学習の到達目標	<p>①日本近世史を中心とした戦後歴史学の流れ（研究動向）を理解することができる。 ②当該分野の研究史をふまえたうえで、従来研究の評価に疑問をもち、史料に基づき批判し、歴史像を見直してみるという視点・手法を理解することができる。</p>
----------	--

■成績評価の基準	<p>・誤字脱字、文体の不統一、不自然な表現や意味不明な表現が、はなはだしい場合は不合格とする。 ・出題の要点を正しく理解していて、表現が的確であり、主張の要旨が明快であれば高く評価する。</p>
----------	--

授業科目	歴史文化特殊研究 1			単位	2.0
担当者	堀 大介	シラバスグループ		TQA180	
開講年度	2025	履修方法	T	設題数	1

■テキスト			
書名	著者	出版社	ISBN
前方後円墳—前方後円墳はなぜ造られたか	吉村武彦ほか	岩波書店	9784000284950

■授業の概要	<p>古代史のなかでも、弥生・古墳時代の研究は文献史料が少なく、考古資料に依拠しなければ通史として叙述することは難しい。しかし、物言わぬ考古資料に歴史を語らせるのは容易なことではない。考古学の基本的な方法にしたがって遺跡・遺物の年代を把握し、それらの分布のあり方や時期的変化を正しくとらえ、それらを総合して背景にある歴史を引き出さなければならない。その際には国内外の文献史料が示唆を与えてくれるが、基礎的な操作段階での安易な利用は慎まなければならない。歴史研究において考古学と文献史学の協業を目指すには、互いの一定の基礎的操作を終えたうえで援用する必要がある。この授業では、ヤマト王権について、考古資料を主とした論と、文献史料を主とした論の2つのテキストを取り上げ、考古資料・文献史料の特徴と異なる方法論を知り、同じテーマに関する同意点と相違点を把握した上で、歴史を叙述する力を養う。</p>
--------	--

■学習の要点	<p>1. 歴史学を構成する考古学と文献史学という異なる方法論を具体的に身につけていく。 2. 考古資料と文献史料の特徴を知ることにより、両者の資料・史料としての属性を知悉する。 3. 同じ資料・史料を用いながらも結論の異同があるので、各自の論拠を明確に把握することで歴史を叙述する力を養う。</p>
--------	--

■学習の到達目標	<p>1. 考古学と文献史学、その相関的な観点からテキストを読み込み、歴史研究における考古資料と文献史料の具体的な活用方法の知悉を目指す。 2. レポート作成を通して、具体的に自分の見解を述べることができる。</p>
----------	--

■成績評価の基準	<p>テキストの読解力とともに他の参考文献の読み込み、論文作成の文章力を評価する。</p>
----------	---

授業科目	歴史文化特殊研究2			単位	2.0
担当者	八木 透	シラバスグループ		TQA190	
開講年度	2025	履修方法	T	設題数	1

■テキスト			
書名	著者	出版社	ISBN
日本の民俗信仰を知るための30章	八木透	淡交社	9784473043214

■授業の概要	日本の民俗文化を考える時、いわゆる民俗信仰と年中行事がひとつの大きな核になることはいうまでもない。当該科目では、日本各地の民俗信仰や年中行事を主たる対象として、多角的な視座から日本の民俗文化の特質について理解することを目指す。
--------	---

■学習の要点	受講生諸氏は、まずテキストを熟読することで、日本の民俗信仰と年中行事の全体像を理解する。その上で、春夏秋冬季節ごとの信仰や行事の特質や地域差について考える。さらに日本の民俗信仰には水や火がよく登場するが、それらはどのような意味を有しているのか。また日本人の信仰の対象は、基本的には神と仏であるが、多くの行事には「鬼」が登場する。日本人にとって「鬼」とはいかなる存在なのかについても多角的に考えてほしい。
--------	---

■学習の到達目標	【到達目標】日本の民俗信仰と年中行事の特質について理解した上で、日本人の神仏に対する信仰の構造的特質やその背景にある日本人独自の精神性についても、多角的な視野で理解できるようになることを到達目標とする。
----------	---

■成績評価の基準	1. テキスト以外参考文献にも目を通し、それらを踏まえて考察することができているか否か。 2. 日本人独自の民俗信仰の特質について理解できているか否か。 3. 日本の民俗信仰の理解を通して、日本人独自の精神性についても考察できているか否か。 4. テキストによって得た知識を元にして、それらを応用して考察する視点を持つことができているか否か。
----------	---

授業科目	フィールドワーク研究			単位	2.0
担当者	鈴木 文子	シラバスグループ		TQA430	
開講年度	2025	履修方法	T	設題数	1

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
改訂版 エスノグラフィー入門〈現場〉を質的研究する	小田博志	春秋社	9784393499177

■授業の概要

〔エスノグラフィー的フィールドワークを学ぶ〕|文化人類学におけるフィールドワーク、質的現場調査とその特徴であるエスノグラフィー（ethnography）的方法論について学ぶ。| 本テキストでは、エスノグラフィーを「人々が生きている現場を理解するための方法論」としている。一言で、フィールドワークといっても、その方法は、分野によって多様である。人間の具体的な生活、行動実践、人間に係る事象に長期にわたって密着し、包括的（ホーリスティック）、且つミクロな個別資料から、マクロな文化事象を考察することが文化人類学の特徴である。このような質的方法論によって得られる知見は、歴史的・時間軸において、文化・社会を考察していく中でも必要な分析力、問題意識を養うことができる。本テキストでは、いかなるフィールドワーク研究においても重要な基礎的知識、技術、論文作成のための概念化のプロセス等に関して学修する。

■学習の要点

卒論を執筆した大学院生は、おそらく（専門的訓練を受けていなければ）無意識に行っていたと思われるフィールドワークによるデータと「概念」化の関係をテキストより確認し、自らの①リサーチクエッションは何か、②そのために何を調べるべきか、③自らの主題をどのような概念タームとして描けるかを明確にする作業へつなげて欲しい。1章から3章ではエスノグラフィーの概要や作成プロセスが確認できる。末尾付属のミニエスノグラフィーによって、初学者はイメージがつかめると思う。事例としての簡易版エスノグラフィーであるため、完成されたものではないが、フィールドワークからのプロセスが理解できる。学部で同一テーマで卒論作成した人は第4章から第8章の研究計画にある第一次の事前調査が一応行われていて、次なる計画に移行する段階と思われる。p56のどの段階に自らがいるかも確認して欲しい。第7章の「概念化」の作業、および第10章以下の論文化のプロセスは、どの専門においてもおおよそ同様の作業が行われる。ただし、本テキストにあるように、概念の関係づけ、「理論化」とはいたずらに既存の理論を当てはめることではない（p.p.115-116,および第10章。特にp.p.189-195参照）。テキストを読み込んで欲しい。

■学習の到達目標

【学習の到達目標】|フィールドワークをおこなう際に、最低限必要と思われる知識、技術を学び、フィールドワークをとおして、得られた資料を整理、分析し記述する方法論を修得する。||①文化人類学におけるエスノグラフィー的方法論の特徴、重要性は何かを説明できる。|②収集したデータを概念化、理論化し、まとめていくプロセスを具体的事例をあげながら的確に説明できる。

■成績評価の基準

問題に対応した解答が論じられているかどうか。さらに適切な文章表現で、具体的に論じられているかどうか。|【「答案」作成上の留意点】|11章 p.p.246-249（テキスト改訂版）を参照し、自分の論文の現段階の作成過程を点検してみよう。学習到達目標①②を参考のこと。それらが明確に文章化されていると高い評価になる。

授業科目	歴史情報と社会			単位	2.0
担当者	網島 聖	シラバスグループ		TQA440	
開講年度	2025	履修方法	T	設題数	1

■テキスト					
書名	著者	出版社		ISBN	
歴史を社会に活かす-楽しむ・学ぶ・伝える・観る	歴史学研究会編	東京大学出版会		9784130230735	

■授業の概要	<p>私たちの身の回りにはさまざまなかたちで歴史情報があふれている。かつて歴史研究の専門家や歴史に造詣の深い知識人たちによって、文字を主な媒介として発せられていた歴史情報が、今や博物館や資料館・文書館、自治体などの多様な機関だけでなく、歴史に興味をもつ一人ひとりに、文字だけでなく画像・映像などを駆使して歴史情報を発信する時代になっている。 そうした時代の中で、歴史研究に関わる私たちは、学界以外の場所でも情報の発信者になることも少なくないが、歴史情報の受信者を忘れて情報を発信しがちである。しかし、歴史情報は、発信者と受信者、両者を媒介するメディアがあって情報として流通している。受信者が発信者にもなる現代において、発信者と受信者との情報のキャッチボールはどのようにすればより円滑に進むのであろうか。こうした問題意識に立って、この科目では受信者を視野に入れた歴史情報のあり方について考えていきたい。</p>
--------	--

■学習の要点	<p>歴史情報を伝達するメディアの多様化は、歴史情報の獲得をより容易に、また身近なものとする一方で、一般に流布する歴史情報と学術的な歴史情報との懸隔を拡大させる恐れも含んでいる。こうした点を踏まえて、学術的な歴史情報の伝達を図るために、以下の点に留意して学修を進めてほしい。 (1) 誰のための、何のための情報なのか、という点を十分に考慮した歴史情報とはいかなるものか。 (2) 上記の点を踏まえ、学術的な成果に基づく歴史情報を効果的に社会に伝達するために、どのような工夫ができるのか。</p>
--------	---

■学習の到達目標	<p>(1) 一般に流布している歴史理解と学界における歴史理解の懸隔を理解する。 (2) 歴史情報を伝達するうえで利用される多様なメディアの長所・欠点を理解する。 (3) 時と場所、そして対象や目的に適った方法で歴史情報の提供ができるようになる。</p>
----------	---

■成績評価の基準	<p>科目最終試験における成績評価の基準および「答案」作成上の留意点 ① 学習の要点 (1) および (2) を踏まえた論述であること。 ② 論理的な構成をもった文章であること。 ③ 必要な資料 (論拠) が正しく添付され、当該資料について説明が行われていること。</p>
----------	--

授業科目	歴史情報基礎論			単位	2.0
担当者	斉藤 利彦		シラバスグループ	TQA450	
開講年度	2025	履修方法	T	設題数	1
■テキスト					
書名	著者	出版社	ISBN		
歴史を社会に活かす-楽しむ・学ぶ・伝える・観る	歴史学研究会 編	東京大学出版会	9784130230735		
■授業の概要					
		歴史学に関わる者は、専門領域に関する研究成果を学会その他に対して発信するだけでなく、調査・研究の成果やその過程で蓄積されるデータを、広く社会に対しても歴史情報として発信し、共有する責務を負っています。 そこで、歴史研究に関わる諸史資料の情報化に向けて、その基本的事項から歴史情報の蓄積、加工、流通等について考察してもらいたいのが、この授業です。			
■学習の要点					
		歴史事象を考察するにあたって、どのような史資料が必要であり、それをどのようなかたちで世に問うのか。テキストの「歴史学とメディア」「歴史学・学術書・読書の新たな関係を考える」「文学・大河ドラマと歴史学」などを参照にして学習してほしい、と考えます。			
■学習の到達目標					
		歴史学における史資料の意義とその分析の方法論、その成果としての発表のかたちを理解し、自らの研究に反映させていくことを目標とします。			
■成績評価の基準					
		(1) 主題の把握について (2) 誤字脱字について (3) 論の構成と展開について (4) 論述の際、具体的な事例などをあげるなどの具体性について。			

授業科目	社会学特殊研究 1 (社会文化)			単位	2.0
担当者	大谷 栄一	シラバスグループ		TTC111	
開講年度	2025	履修方法	T	設題数	1

■テキスト					
書名	著者	出版社		ISBN	
宗教集団の社会学 その類型と変動の理論	三木英	北海道大学出版会		9784832967854	

■授業の概要	<p>宗教の社会学的研究は、社会学の草創期から始まっている。マックス・ウェーバーの『プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神』（1904～05年）やエミール・デュルケムの『宗教生活の原初形態』（1912年）は、今でも読み継がれている古典的研究である。しかし、20世紀初頭と21世紀初頭では歴史的・社会的状況も大きく変化している。また、宗教のあり方も変貌している。グローバル化した現代世界では、イスラムの世界的な興隆、南北アメリカでのペンテコステ派の伸長、先進諸国でのスピリチュアリティの流行など、あらためて宗教や宗教的なものの動向が注目されている。こうした状況に対して、宗教社会学の研究は必ずしも十分に進展しているとは言い難い。 そもそも日本の宗教社会学は、ウェーバーやデュルケムなど、欧米の宗教社会学研究に強い影響を受けて展開してきた。欧米の理論を受容し、その視点を日本の社会や宗教に適用した研究もあれば、日本の宗教を対象とした研究を蓄積し、自前の理論も組み立ててきた。では、現代世界における多種多様な宗教や宗教的なものを分析するためには、どのような理論や視点をういれればよいのだろうか。 本科目では、従来の宗教集団論を更新することを掲げ、宗教集団の理論的研究を行っているテキストを用いることで、現代世界における宗教の役割を社会学的に分析するための理論や視点を習得することを目的とする。</p>
---------------	---

■学習の要点	<p>まず、第一章で従来の宗教集団類型論と日本の宗教集団類型論を学んでください。次に、第二章でテキストの筆者が提示した新たな宗教集団類型論を把握し、その類型論を用いた宗教集団の展開モデル(宗教集団類型間の移行)を第三章で理解していただければと思います。 これらの章を十分に理解した上で、具体的な事例の分析・記述を行っている第四章と第五章を読み、宗教集団の分析方法を習得してください。 さらに第六章では筆者がいう「宗教的無党派層」を把握するための視点を学んでください。</p>
---------------	---

■学習の到達目標	<p>1. 現代世界における宗教の役割を社会学的に分析するための理論や視点を身につけることが目標です。 2. 宗教集団類型論の概念や視点を習得しているかどうか、現代日本の宗教動向を十分に分析できているかが成績評価の基準になります。</p>
-----------------	--

■成績評価の基準	<p>1. テキストの内容を十分に踏まえていること (25%)。 2. テキストの概念を正確に用いていること (25%)。 3. 自分独自の視点や意見があること (25%)。 4. 文章に論理的な整合性・一貫性があること (15%)。 5. テキスト以外の文献(本や論文)も用いていること (10%)。</p>
-----------------	---

授業科目	社会学特殊研究2（社会文化）			単位	2.0
担当者	大貫 拳学		シラバスグループ	TTC112	
開講年度	2025	履修方法	T	設題数	1

■テキスト			
書名	著者	出版社	ISBN
分断と対話の社会学 ―グローバル社会を生きるための想像力	塩原良和	慶應義塾大学出版会	9784766424232

■授業の概要	<p>私たちが生きているのは、グローバル化が進展し、それとともに新自由主義が席卷する時代である。そこでは階層／ジェンダー／エスニシティなどの差異が複雑に再編されつつ、全体としては格差や不平等が拡大している。 こうした状況において、社会学の理論を手がかりとして「他者」との「共生」のあり方を考えたい。</p>
--------	--

■学習の要点	<p>・「グローバル化」「新自由主義」に関して、社会学の重要な議論を理解する。 ・具体的な社会現象について、「グローバル化」「新自由主義」という観点から批判的な考察を行う。</p>
--------	---

■学習の到達目標	<p>「他者」との「共生」について自分なりの視点を獲得すること。</p>
----------	--------------------------------------

■成績評価の基準	<p>・上記の目標への到達度を評価する。つまり、テキストの内容理解と、それらについての自分なりの捉え方が問われることになる。 ・最終試験の評価にあたっては、出題趣旨やテキストの内容をふまえているか、自分なりによく考えられているかを重視し、さらに論理展開や文章表現・表記などを含めて総合的に判断する。</p>
----------	--

授業科目	社会学特殊研究3（社会情報）			単位	2.0
担当者	崔 銀姫	シラバスグループ		TTC113	
開講年度	2025	履修方法	T	設題数	1

■テキスト			
書名	著者	出版社	ISBN
東アジアと朝鮮戦争七〇年：メディア・思想・日本	崔銀姫著	明石書店	9784750354798

■授業の概要	<p>1.東アジアと戦争を中心的なテーマに据え、日本の過去・現在・未来について考察します。</p> <p>2.日本、韓国、中国、北朝鮮、アメリカなどの国々における政治的・社会的変化、および文化的な連続性と断絶に関連する歴史的な変容を考えます。</p> <p>3.東アジアにおけるグローバル化や、21世紀のデジタルメディア技術の進展によるさまざまな変化を注意深く検討します。</p> <p>4.グローバル化、ネットワーク化、デジタル化に伴うメディア文化の混交や変容を視野に入れながら、これからの日本の在り方について考察します。</p>
--------	--

■学習の要点	<p>1.東アジアと日本について、なぜそれが重要なのか、またなぜ今、朝鮮戦争から70年が意味を持つのかをテキストを参考にして考察する。</p> <p>2.テキストに紹介されている、東アジアと朝鮮戦争70年に関連するメディア（新聞や放送、小説、戦争ビラ、映画など）と社会との関係性や変化、そしてその背景について理解できる。</p> <p>3.東アジアと朝鮮戦争70年をめぐる歴史的な展開の中で、日本の今後の役割について意見を述べることができる。</p>
--------	---

■学習の到達目標	<p>1.「マスメディア」や「情報」「放送」「ドキュメンタリー」などの問題を通じて、「近代」や「国民国家」「差別」「排除」「救済」「表象」「言説」「エスニシティ」「戦争」「グローバル化」「放送空間」「公共性」などの問題との関係性や意味を理解できたか。</p> <p>2.戦後日本のメディアに関する歴史的かつ社会的な理解が深まったか。</p>
----------	--

■成績評価の基準	<p>「書き方は適切か」 「独創的な事例を挙げているか」 「論じているか」 「正しく概念を理解し、社会に適用しているか」 「引用や注釈を明記しているか」</p>
----------	--

授業科目	社会学特殊研究4（社会情報）			単位	2.0
担当者	村瀬 敬子	シラバスグループ		TTC114	
開講年度	2025	履修方法	T	設題数	1

■テキスト			
書名	著者	出版社	ISBN
「反戦」と「好戦」のポピュラー・カルチャー メディア/ジェンダー/ツーリズム	高井昌吏	人文書院	9784409240915

■授業の概要	私たちの「現実」の認識の多くは、メディアによって構成されており、それは過去の「戦争の記憶」についてもあてはまる。この科目は、特にポピュラー・カルチャー（小説、マンガ、映画、資料館、ツーリズムなど）において、戦争がどのように表象されてきたのか、戦争の語りは複数のメディアをどのように横断してきたのか等を、個々の事例別にみていく。
--------	---

■学習の要点	テキストは戦後日本のポピュラー・カルチャーにおいて、戦争がどのように表象されてきたのかを、銃後生活を主題とした「反戦」的な要素をもつ作品の分析（第Ⅰ部）と、ヒロイズムへの共感など「好戦」的な要素をもつ作品や文化の分析（第Ⅱ部）から構成されている。第一部と第二部の内容を比較しつつ読むことで、レポートの構成を考えてほしい。
--------	--

■学習の到達目標	社会的な記憶（集合的記憶）とポピュラー・カルチャーとのかかわりを理解したうえで、戦後日本における戦争の表象についての大枠を理解することを目標としている。
----------	--

■成績評価の基準	科目最終試験では、要点を正しく理解しながら事例分析が適切にできているかどうかを評価する。
----------	--

授業科目	社会学特殊研究5（共生臨床）			単位	2.0
担当者	香西 豊子		シラバスグループ	TTC115	
開講年度	2025	履修方法	T	設題数	1
■テキスト					
書名	著者	出版社	ISBN		
サイエンティフィック・リテラシー 科学技術リスクを考える	廣野喜幸	丸善出版	9784621086452		
■授業の概要					
「リスク」とは何か、「リスク」の諸相、「リスク」を論じる際の問題点などを主として、いまや社会を考えるうえで不可欠の「リスク」という概念について洞察を得る。					
■学習の要点					
「リスク」に関わる問題について、さまざまな事例から具体的に考えてください。					
■学習の到達目標					
テキストの学習を通じて、「リスク」をどのように考えるのか、自分の意見を明確にできるようになる。 【成績評価の基準および「答案」作成上の留意点】 ・論旨のあいまいなものは、大幅に減点します。 ・誤字・脱字についても、その数に応じて減点します。					
■成績評価の基準					
レポートは、つぎの諸点を鑑み、総合的に評価します ・内容が設題に対応しているか ・学術的なスタイルで書かれているか ・用語が正確に使用されているか ・論旨は明確か ・論拠が適切に提示されているか					

授業科目	社会学特殊研究6（共生臨床）			単位	2.0
担当者	大東 貢生	シラバスグループ		TTC116	
開講年度	2025	履修方法	T	設題数	1

■テキスト			
書名	著者	出版社	ISBN
ジェンダー秩序 新装版	江原由美子	勁草書房	9784326654314
未来をひらく男女共同参画 ジェンダーの視点から	西岡正子 編著	ミネルヴァ書房	9784623075645

■授業の概要	<p>現代社会における女性と男性の差（ジェンダー）が私たちの人間関係にどのような影響を与えているのかについて考えます。私たちが取り結ぶ人間関係の中では「女」と「男」は欠かせない話題のようです。男の友情はすばらしいと思ったり、女は情けが深いと思ったり。「男は女を好きになり、女は男を好きになる」と思い込んでいたり。でも、はたして根拠はあるのでしょうか。私たちのジェンダーに対する意識とジェンダーが社会に与えている影響を考えていきたいと思えます。</p>
--------	---

■学習の要点	<p>「女性」「セクシュアル・マイノリティ（性的少数者）」「男らしくない男性」の分断はどのようにしてもたらされているのかについて、ジェンダーの理論的背景からまとめてください。</p>
--------	---

■学習の到達目標	<p>ジェンダーの理論的展開に基づき提案がなされているかについて科目最終試験で測ります。またその提案の具体性・実現可能性によって成績評価を行います。</p>
----------	--

■成績評価の基準	<p>出題の要点を正しく理解し、理論的に解答を作成してください。論述の展開とその理解度により、採点を行います。</p>
----------	---

授業科目	ソーシャルマネジメント特殊研究1（環境）			単位	2.0
担当者	堀江 典子	シラバスグループ		TTC151	
開講年度	2025	履修方法	T	設題数	1

■テキスト			
書名	著者	出版社	ISBN
都市をつくる風景 ―「場所」と「身体」をつなぐもの	中村良夫著	藤原書店	9784894347434

■授業の概要	私たちの生活空間の風景は、明治以降の欧米を手本とした近代化と古来からの風土と生活文化とのせめぎ合いのなかで形成されてきたといえるでしょう。都市化に加えて気候変動の影響は身近な風景はもとより原始からの自然までをも変えようとしています。科学技術の加速度的な進歩も私たちのライフスタイルをさらに変化させようとしています。このような状況を踏まえて、本授業では、都市と風景について考えます。
--------	--

■学習の要点	学修の基本はテキスト丁寧に読むことです。内容を理解しながら、疑問に思ったことなどについては他の文献等も調べるなどしながら理解を深めて下さい。歴史や社会情勢についての基本的な知識をもっていることも理解には不可欠です。
--------	---

■学習の到達目標	テキストをよく理解できていて、それを踏まえて自ら考え論述できることが到達目標です。 出題はテキストをもとに発展させる内容ですので、解答もテキスト学習の要点を踏まえて発展させ記述してください。 答案の作成に当たっては、何が求められているかを正確に理解して、論理的に記述してください。
----------	--

■成績評価の基準	・ 出題の要点を正しく理解して、求められていることに対して解答できているか。 ・ 必要なキーワードが含まれているか。 ・ 正確かつ論理的に記述できているか。 ・ 記述量は適切か。記述量が少なすぎる場合には減点の対象になりますが、関係のないことで記述量を増やしても加点されません。
----------	---

授業科目	ソーシャルマネジメント特殊研究2（環境）			単位	2.0
担当者	水上 象吾	シラバスグループ		TTC152	
開講年度	2025	履修方法	T	設題数	1

■テキスト			
書名	著者	出版社	ISBN
ランドスケープの近代 建築・庭園・都市をつなぐデザイン思考	佐々木葉二/三谷徹/宮城俊作/登坂誠 著	鹿島出版会	9784306072817

■授業の概要	<p>近代以降、さまざまな都市問題が複雑化し混乱し対応を迫られていく中で、都市空間のあるべき姿も模索されてきました。 都市計画やまちづくりにおいて、どのような空間形成を目標とするのか、どのように環境は認識され、いかなる世界観をもって捉えられているのか等、認知構造を把握し様々な切り口から課題と展望を論じていく必要があります。 本科目では、ランドスケープデザインによる空間形成のアプローチを、現代社会において環境を考える際に不可避な課題群とともに学びます。ライフスタイルや価値観によりあり方が問われるランドスケープに対し、グローバル化していく時代においてどうあるべきかを考えることを目的とします。</p>
--------	---

■学習の要点	<ul style="list-style-type: none"> ・都市空間形成において考慮すべき課題について理解すること。 ・現代社会が抱える各課題に対する空間的対応の考え方を理解すること。 ・現在のライフスタイルを考慮し、今後どのような視点でランドスケープを捉えていけばよいかを考えること。
--------	--

■学習の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・テキストで論じられている内容を理解し、自らの考えに生かすこと。 ・論理的に説明できること。 ・論点に独創性を、理由や根拠に説得力をもたせること。
----------	---

■成績評価の基準	<ul style="list-style-type: none"> ・レポートの内容に独創性やオリジナリティがあるか ・自身の主張がきちんとされているか ・適切な資料を引用し議論がなされているか
----------	---

授業科目	ソーシャルマネジメント特殊研究3（環境）			単位	2.0
担当者	林 隆紀	シラバスグループ		TTC153	
開講年度	2025	履修方法	T	設題数	1

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
環境科学入門—地球と人類の未来のために（第2版）	川合 真一郎/張野 宏也/山本 義和【著】	化学同人	9784759819403

■授業の概要	<p>過去 100 年で科学技術は多くの不可能を可能に変え、人類の社会的発展を大きく支えてきた。その一方で特に経済的発展への貢献を優先してきたため、地球温暖化、化学物質汚染、資源枯渇など様々な弊害が顕在化してきたのも事実である。この点で、科学技術がもたらす脅威は今や地球規模となってきている。この解決に向けて、環境科学の視点から議論することは避けて通れない。本科目ではその科学技術についての課題の認識とそれへの考え方を学ぶことを目的とする。ここでは環境科学の視点からみた環境汚染問題を中心に、われわれの未来のあるべきライフスタイルを模索しながら検討してもらいたい。</p>
--------	--

■学習の要点	<p>（1）人間活動と環境とのかかわりについて、環境科学の視点から考察する。 （2）多様な環境問題の種類とその概要を理解する。 （3）化学的知識をもとに今日の汚染について考察する。 （4）環境倫理の視点をおさえながら、環境活動の実践を考える。</p>
--------	---

■学習の到達目標	<p>基本的な自然科学の正確な知識をもとに環境問題の議論ができる能力を身につけることを目標とする。 試験においては、「可もなく不可もない」抽象的意見のみを終始羅列するのではなく、学習内容に基づいて、具体的課題の指摘や分析、あるいは提言が表現できるようにすること。</p>
----------	--

■成績評価の基準	<p>（1）テキスト内容の基本的理解ができていること （2）問題に示された指示内容についての確に解答できていること （3）最終試験の記述にあたっては、テキストや問題を踏まえて論述すること、かつその中に自分自身の意見が明示されていること</p>
----------	---

授業科目	ソーシャルマネジメント特殊研究4（地域）			単位	2.0
担当者	野崎 敏郎		シラバスグループ	TTC154	
開講年度	2025	履修方法	T	設題数	1

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
現代の食料・農業・農村を考 える	藤田武弘 他編	ミネルヴァ書房	9784623082841

■授業の概要

戦後日本の農業は、敗戦時の困難な状況からの復興を果たし、戦後日本社会を支えてきました。しかし、現在の私たちの食生活は、日本農業から乖離し、また農業者も農村も、安定した持続可能性を見出すことができないままになっています。国際経済体制の度重なる改変・変動のなかで、日本の農業は大きな危機を迎えています。この日本の農業をどう支えるのか、また食の安全保障をいかに確立させるのかが、国民的課題として重要です。| テキストは、現代日本における食料と農業と農村の基本構造を明示し、その問題の所在を解明した好著です。これによって、日本の農業の歴史的特質と、その抱えている問題を把握し、今後日本の農政はどうあるべきか、またこれからの農業者はどうあるべきかを考察することは、日本の将来にとって、重要な意義をもちます。とりわけ、食生活と農業との乖離は、食料と農業をめぐる問題を拡大する根本要因だと言えます。| 戦後の農業・農政にかかわる史実を把握するとともに、第一次産業の現代的課題をみつめ、日本農業の将来像を展望してほしいと思います。

■学習の要点

本科目では、テキストの第10～12章をカットし、残る14の章の内容をまとめていくことによって、日本の食料・農業・農村にかかわる諸問題の理解を図ります。| 第一に、グローバル化の広がりのなかで、日本の農業と食料とが置かれている現状を把握します（第1・2章）。| 第二に、生産・加工・流通にかかわる諸問題を概観し、また政策の基本方向が農産物市場開放策へと進んでいくために生じた問題を把握します（第3～5章）。| 第三に、農政の歩み、農地と農業の担い手の問題、水田農業のありかた、農業協同組合の課題を押さえることによって、農業主体の形成について考えます（第6～9章、第13章）。| 第四に、農村の地域づくり、農村振興策、移住・定住の推進、地域資源の活用の取り組みを学び、地域農業基盤強化の課題を探ります（第14～17章）。| こうした四つの論点から、日本の農業・農村が直面している諸問題を理解し、またそれを打開する道を探ることが、この科目の課題です。

■学習の到達目標

到達目標は、現代日本における食料・農業・農村の基本構造を理解すること、その問題の所在を把握すること、農業にかかわる諸領域の諸問題を理解すること、そして、これらの問題を解決する方向を探る力を身につけることです。

■成績評価の基準

たんにテキストに記述されている諸問題を並べていくのみではなく、戦後日本の農業と食料をめぐる諸問題がなぜ生じたのか、またそれを打開するための方向づけがどのような政策思想にもとづくものなのかを、自力で考察しているか否かを重視します。

授業科目	ソーシャルマネジメント特殊研究5（地域）			単位	2.0
担当者	大藪 俊志		シラバスグループ	TTC155	
開講年度	2025	履修方法	T	設題数	1

■テキスト					
書名	著者	出版社		ISBN	
行政学 新版	真淵勝	有斐閣		9784641149359	

■授業の概要	<p>今日の社会において行政の活動は必要不可欠な存在となっている。そのため、現代の国家は「行政国家」という表現でその特徴を捉えられることがある。この授業では、まず、膨大な行政活動を遂行する官僚制について、公務員制度の仕組み、行政機構の概要、政府と民間部門との関係などの論点を学ぶ。また、市民生活に最も身近な行政である地方自治の仕組みについて、自治体の担う事務と財政の構造、自治体の行政機構と人事制度、大都市行政と広域行政の制度について理解する。そのうえで、行政活動に関する理論（政策過程や官僚制のモデル）を学習し、現代の行政システムが抱える問題と今後の方向性を模索する。</p>
--------	---

■学習の要点	<p>1. 行政の活動を支える官僚制に関し、公務員制度、行政機構、民間部門との関わりなどの論点について学習する。 2. 日本の地方自治制度に関し、自治体が担う事務と財政、自治体の行政機構や人事制度について学習する。 3. 行政システムに関する理論を学び、現代行政が直面する課題と今後の方向性を検討する。</p>
--------	---

■学習の到達目標	<p>1. 行政の活動を支える官僚制に関し、公務員制度、行政機構、民間部門との関わりなどの論点についての確に理解し説明できるようになる。 2. 日本の地方自治制度に関し、自治体が担う事務と財政、自治体の行政機構や人事制度についての確に理解し説明できるようになる。 3. 行政システムに関する理論を学び、現代行政が直面する課題の解決策、今後の方向性を考察できるようになる。</p>
----------	---

■成績評価の基準	<p>科目最終試験では、出題のポイントを的確に理解しているかどうか、論理的な記述がなされているかどうかという点を成績評価の基準としています。</p>
----------	--

授業科目	ソーシャルマネジメント特殊研究6（地域）			単位	2.0
担当者	藤井 透		シラバスグループ	TTC156	
開講年度	2025	履修方法	T	設題数	1

■テキスト			
書名	著者	出版社	ISBN
経済の時代の終焉（シリーズ現代経済の展望）	井手英策	岩波書店	9784000287319

■授業の概要	<p>デフレ、賃金の減少、財政危機、といった大きな経済問題が論じられてきたにもかかわらず、一向に解決の道筋が見えない、そんな姿が2010年代の日本の経済と社会の特徴のように思われる。さまざまな矛盾を抱える日本の経済と社会は、どういう方向に舵を切れば、「よりよい」（ベストとは言わないが）社会に向かっていくのか。こういう問題意識をもったテキストから、混迷する現代の日本社会への処方線のひとつを理解してみたい。</p>
--------	---

■学習の要点	<p>財政学、財政社会学の方法を軸に、日本の経済と社会の再生を展望する。よって、前記の学問分野や経済学を駆使して、現代の賃金、グローバリゼーション、財政危機、国と地方の関係などを考察する。</p>
--------	--

■学習の到達目標	<p>日本経済の現実の姿、矛盾をどうみることができるか、矛盾をどう解決できるか、という点を専門的な用語を適切に使って書けるかが、学習の目標である。よって、成績評価も、それらの点を重視する。また、文章を論理的に書けるよう習熟されたい。</p>
----------	--

■成績評価の基準	<p>テキストの著者が使用している「普遍主義」の内容を正確に理解しているかどうか、評価の基準である。「普遍主義」という概念は、他の分野でも使われる概念であるので、それとは明確に異なるということに注意を払われたい。</p>
----------	--

授業科目	社会福祉学研究基礎Ⅱ			単位	2.0
担当者	岡崎 祐司		シラバスグループ	TWB020	
開講年度	2025	履修方法	T	設題数	1

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
社会福祉学研究基礎Ⅱ 論文集	社会福祉学研究科 教員		*閲覧はこちら
論文集 解説	岡崎 祐司		*閲覧はこちら

*閲覧にあたっては、佛教大学より付与されているアカウント(~@bukkyo-u.ac.jp)のみ閲覧可能です。

■授業の概要

修士課程院生としての基礎力を養成する科目である。受講生は社会福祉学研究基礎1をしっかりと振り返り、学修に臨んでほしい。社会福祉学研究基礎1を補い、また新たに必要な理論や視点を学んでもらう。1冊の市販テキストではなく、本学の『社会福祉学部論集』等から論文15編と授業資料をテキストとする。論文リストは、解説1「社会福祉学研究基礎2の学修にあたって」(授業解説)を参照。これらは各研究者の研究成果であり、専門的内容を多く含んでいるが、丁寧に読めばそこに社会福祉研究全体に通ずる基本的視点をつかむことができ、各論文が社会福祉の基礎理論に立脚しながら展開されていることがわかるはずである。大学院教育課程の学修は、学部で使用する基本テキストで学習するのではなく(それは各自で必要に応じて取り組んでいただきたい)、やや歯ごたえのある専門的応用的論文や著書を読み解くことに“挑む”学びである。そのつもりで、取り組んでいただきたい。もっとも本授業で、社会福祉のさまざまな専門領域や方法の全てカバーすることはできない。ここでは諸論文をしっかりと読み解くことに重点をおき、この科目で養った読解力を活かして各自の専門領域や研究テーマを深めてもらうことをねらいとする。

■学習の要点

1.まずスクーリング「社会福祉学研究基礎Ⅰ」を受講し、そのうえでこの科目「社会福祉学研究基礎Ⅱ」の学修をすすめていただきたい。解説で各論文の性格や学修の進め方を説明しています。|2.解説資料2の「社会問題としての貧困問題・生活問題—社会福祉対象論をめぐる視点」は、社会福祉学の基本の基本、社会福祉研究の基礎の基礎です。必ず、学修の最初にこれを読んでおくこと。どのような研究テーマ、分野を深めるにしても、対象論は社会福祉理論の基本です。|3.レポート設題や科目最終試験問題(論述)のでる部分だけに絞った学修を行うのではなく、テキストとして指定している各論文をよく読んで、社会福祉の主体、対象、方法およびその歴史性、現代的課題を把握するよう、それぞれで努力していただきたい。|「社会福祉学研究基礎1」のシラバスで紹介した文献を含め、社会福祉の歴史については、自らよく学んでおくこと。|4.ソーシャルワークの基礎知識や専門性は学部レベルのテキストなどで学習してもらおうとして、指定論文⑬、⑭、⑮は社会福祉方法論、ソーシャルワークの基盤になる歴史、社会観、人間観を論じた論文であり、社会福祉方法論、ソーシャルワークの本質を追求する論文である。戦後のソーシャルワーク研究や実践現場に大きな影響を与えた岡村理論—代表的著作に岡村重夫『社会福祉原論』(全国社会福祉協議会)1983年—の批判的継承と発展を意図した論文である。社会福祉実践の基本をつかむつもりで読み込んでほしい。|5.科目試験は指定論文⑭を熟読し、この著者が、社会福祉専門職実践に関して最も強調したかったことはなにか、論点を明確にして説明しなさい。そのうえで、現在の社会状況に照らして、ソーシャルワーカーの専門性と社会的使命とはなにか、あなたの考察を展開して説明しなさい、とします。

■学習の到達目標	社会福祉学研究科修士課程の院生として、論文をしっかり読み込む力（研究的読解力）を身につける。 ある論文についてその内容を的確に説明することができ、その論文テーマに関して自己の問題意識を論理的に説明することができる。
■成績評価の基準	①論理的な文章が書けているか。 ②専門用語を適切に使用できているか。 ③設題の意図をふまえ、論文の要旨を的確に説明できているか。 ④自己の問題意識の深さ。

授業科目	社会福祉原理論研究			単位	2.0
担当者	藤松 素子	シラバスグループ		TWB110	
開講年度	2025	履修方法	T	設題数	1

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
社会福祉原理論研究	藤松素子	佛教大学	9784907177607

■授業の概要

社会福祉とは何であるのか。何を対象に、どのように構成され、何によって推進されるものなのか。どのような構造の下で前進・後退するものなのか。社会福祉を成立させる基本法則、普遍的価値、原理を学ぶ科目である。先達達は社会福祉をいかに理論的に整理し、どのような議論を展開してきたのか。また、その概念・理論と実際の社会福祉展開にはいかなる関係性がみられるのかを検討することが大きな課題となる。| とりわけ社会福祉は実践の学である。単に理論的検討をするにとどまらず、具体的な個々の生活問題の出現とそれへの対応といった実践的な課題との関わりにおいて、実証的に検討することも求められる。常に実際の課題と照らし合わせながら理論を検証し、困難な現実を乗り越えるために理論に立ち返るといった姿勢をもちながら学習を進めることが不可欠である。

■学習の要点

1. 生活問題が出現する社会構造全体を総合的に理解すること。|2. 社会福祉に関わってこれまで検討されてきた基本的概念・理念・理論について丁寧にサーヴェイをすること。|3. 社会福祉における対象論・主体論について理解すること。|4. 社会福祉の政策・制度設計に関わり議論されてきた論点について具体的に調べ、その背景にある価値・理念・理論について批判的に検証すること。|5. 「地域福祉の時代」とよばれる中で、提示されている各論点について、地方自治、住民自治双方の観点から理論的に検討すること。

■学習の到達目標

現代日本における社会福祉理論の到達点をふまえて、個々の問題意識にひきつけながら、社会福祉の現状について考察を深めることを目標とします。詳細は以下の通りです。|1. 生活問題が出現する社会構造全体を総合的に理解できている。|2. 社会福祉に関わってこれまで検討されてきた基本的概念・理念・理論について丁寧にサーヴェイできている。|3. 社会福祉における対象論・主体論について理解できている。|4. 社会福祉の政策・制度設計に関わり議論されてきた論点について具体的に調べ、その背景にある価値・理念・理論について批判的に検証できている。|5. 「地域福祉の時代」とよばれる中で、提示されている各論点について、地方自治、住民自治双方の観点から理論的に検討できている。

■成績評価の基準

試験問題として何が要求されているのかをしっかりと理解した上で、実際の社会福祉の動向について分析し、個々の問題意識に基づいて議論を展開してください。テキスト履修科目の最終試験ですので、テキストの内容が理解できていることが前提ではありますが、修士課程の学習ですので、個々の問題意識が明確であること、社会福祉の動向についてきちんと分析できていることも評価基準となります。質量共に過不足なく、論理的に展開できていること、引用注の付け方等の作文上のルールを守り、正しい日本語で書かれていることなどに考慮して作成してください。

授業科目	社会福祉方法論研究			単位	2.0
担当者	江本 純子	シラバスグループ		TWB120	
開講年度	2025	履修方法	T	設題数	1

■テキスト			
書名	著者	出版社	ISBN
福祉政策とソーシャルワークをつなぐ	棕野美智子編	ミネルヴァ書房	9784623090624
いま、ソーシャルワークに問う	旭洋一郎・高木博史編	生活書院	9784865001570

■授業の概要	<p>人間と動物の大きな違いの一つを、成長と発達の違い、順応（適応）と参加の違いに求めることができるのではなかろうか。樹木は成長するが人間は質的な変化を遂げながら発達する。その過程で、今ある自然に順応するのではなく自身が参加する社会を築き上げる。福祉要求がある人を今日の自助・共助を強調する福祉観や福祉政策に反映された順応の方法を提供するのがソーシャルワーカーの本来の姿ではない。そうした政策に対峙しつつ新たな実践・運動や制度を築き上げるソーシャルワーカーが今求められている。ソーシャルワークは、実践と政策策定における社会正義を高めることと、構造的な抑圧の分析や、協働アプローチによるアクションを優先する実践理論を備えることをミッションとする。この授業では、ソーシャルワークを中心とする社会福祉方法論を深める研究のあり方を探る。</p>
--------	--

■学習の要点	<p>福祉の「対象者」は、差別され抑圧されてきた存在である。その状況から彼や彼女たちが、自身の課題と対峙しつつ自身をいかに解放するかをソーシャルワーカーたちは考えてきた。この授業では、ソーシャルワーク実践の理論がどのように追及されてきたのかを検討しつつ、それが、今日の社会の個々の問題に関し、クリティカルな視座をもつとはどういうことであるのかをテキスト学習を通して学ぶ。</p>
--------	---

■学習の到達目標	<p>それぞれの学習の要点に即してテキスト学習を進めるとともに、必要な関連、参考文献等に積極的にあたること。問題はテキストに即して出題される。したがってテキスト学習における理解とともに設題の意図、要点が十分に踏まえられ、かつ自らの意見が理論的に述べられていること。その際、わが国の、また国際的な社会福祉の動向が踏まえられていることが望ましい。こうした点が充たされておりかつ一定の文字数、回答における論述の展開などが評価の対象となる。</p>
----------	--

■成績評価の基準	<p>設題の明確な把握とともに、それを踏まえ、回答において学習の到達目標が十分に理解されていること。その際、特に歴史的な変遷とともに、国際的な比較とそれを前提としたわが国の現状の把握や位置づけ、その根拠、その上での課題が明確であること。その際、わが国の社会福祉援助論の検討において必要となる幾つかの基本的な課題についても言及され、自らの意見が述べられていること。</p>
----------	---

授業科目	社会福祉政策論研究			単位	2.0
担当者	岡崎 祐司	シラバスグループ		TWB130	
開講年度	2025	履修方法	T	設題数	1

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
老後不安社会からの転換 介護保険から高齢者ケア保 障	岡崎祐司編・福祉国家構想 研究会編	大月書店	9784272360765
脱貧困の社会保障	唐鎌 直義	旬報社	9784845112661

■授業の概要

この科目は選択科目であり、福祉政策研究を内容とするので、率直に言って、内容は難しいと思う。シラバス内容をよく読んで、受講するかどうかを決めてほしい。|受講者には、介護保険制度の本質的・批判的検討を通して、介護保障（ケアサービス保障）政策はどうあるべきかを考察してもらおう。単なる制度解説、制度説明の科目ではなく、大学院レベルの政策研究として介護保険の批判的検討を通じて、政策理論を学んで学ぶことがねらいである。介護保険制度の解説や問題点の羅列を求めているわけではない。政策研究として問題意識を研究的視点に高め、レポート、試験に臨んでいただきたい。|そのためには参考文献もしっかり読んでいただきたい。繰り返すようだが、政策論として設題・問題の趣旨をしっかりとふまえたレポートと試験の内容を受講生に求める。本来、大学院は、テキストの学修のみで終わらせるものではない。人権としての社会保障、社会保障制度とはなにか、福祉行財政の構造はどうなっているか、政策批判的視点を求める学修である。成績の評価基準は、レポート、試験とも論理性、論述が展開しているか、情緒的主観的な記述ではないこと、専門用語の正確な使用、政策をめぐる事実の正確な把握、設題・問題に的確に答えているかという点におかれる。テキスト学習に限定した水準での評価ではなく、大学院修士課程の政策研究に応じた水準での評価となるので、履修にはやや骨が折れるかもしれない。基礎の学習こそ最も労力が必要であるが、そうした基礎は自分の研究の土台を形成する。

■学習の要点

（１）以下の諸課題は、テキストにもとづいて学習する。|①介護保険制度の本質的課題について、とくに現金給付、現物給付の違いに着目して学習する。|②介護保険制度の発足から改定の軌跡を学習する（テキストは2017年まで説明しているので、その後の改定経過については、各自で調べていただきたい）。|③「地域包括ケアシステム」の焦点と政策課題について学習する。|④介護保険財政の仕組みや、保険原理主義の問題点を学習する。|⑤ケアに関するナショナルミニマムの論点について学習する。|⑥介護保障につながる制度改革の課題と展望について学習する。|（２）担当者の最近の論文から、保険者機能強化の問題点、ケアの政策的な位置づけを学ぶ。|（３）参考文献を通じて新自由主義改革の真の意味、運動論の意義をつかみ、つねに資本主義の原理を意識する。

■学習の到達目標

①福祉政策論の基礎を学び、現在の社会保障制度・福祉制度に関する問題意識を醸成し、問題点・課題を説明することができる。その際に、新自由主義改革の本質をつかむで現在の問題点を説明することができる。|②批判的福祉政策論の視点から介護保険制度の問題点を構造的に説明することができる。そのうえで、あるべきケアサービス保障政策への提起ができる。|③論理的な文章が書けること。

■成績評価の基準	①記述の論理性と適切な構成。 ②社会科学的用語の正確な使用。 ③政策論的分析にもとづく記述。 ④問題に対する正確な理解と自らの問題意識にもとづく記述。 ⑤テキスト、参考文献・参考資料、参考 web 等の無断引用、無断借用、剽窃があればゼロ点とする。
----------	--

授業科目	社会福祉史研究			単位	2.0
担当者	小池 桂		シラバスグループ	TWB140	
開講年度	2025	履修方法	T	設題数	1
■テキスト					
書名	著者	出版社	ISBN		
社会福祉の歴史 地域と世界から読み解く	田中和男・石井洗二・倉持史朗編	法律文化社	9784589038166		
■授業の概要					
		社会福祉を学ぶ際、それがどのような経緯を経て今日に至っているのかを学習することは不可欠である。この授業では日本社会福祉史をまずは通史的に捉え、加えてそれらの地域での展開を理解しながら、さらには国際的な動向の中で位置づけることを目指す。			
■学習の要点					
		1.日本社会福祉の歴史をまずは通史的に理解し、その全体像を把握すること。 2.その上で、日本社会福祉史の特質を理解する。			
■学習の到達目標					
		1. 日本社会福祉の歴史的展開を通史的かつ段階的に把握することができる。 2. 社会福祉が20世紀以降に本格的に形成されることの意味を理解することができる。			
■成績評価の基準					
		上記の二つの学習の到達目標の達成度に応じて成績を評価する。			

授業科目	比較福祉研究			単位	2.0
担当者	朴 光駿	シラバスグループ		TWB150	
開講年度	2025	履修方法	T	設題数	1

■テキスト			
書名	著者	出版社	ISBN
社会政策の国際動向と日本の位置	居神 浩	放送大学教育振興会	9784595324048

■授業の概要	<p>「国際福祉」という言葉は、「社会福祉分野の国際援助」と「社会福祉の国際比較」という2つの意味で使われている。前者の場合、国際援助の主体が、主に国連を含む国際機構、個別国家による政府開発援助（ODA）、国際（協力）NGO、国際ボランティアの4者になっていることから、その4者による国際援助活動という側面が強調され、それは学問的分析対象ということよりは「援助実践」という性格が強い。その反面、後者は、2つ以上の国家のもつ社会福祉体系を比較し、その類似性と差異を明らかにすること、あるいはある特定国家の社会福祉の特徴についての理解を深めるということに焦点がおかれているもので、研究方法においても研究内容においても、全く学問的分析の対象になっているものである。 この科目は、「国際福祉論」のもつ以上の2つの側面の中で主に後者の捉え方にに基づき、社会福祉の国際的傾向を社会福祉の分野別に把握し、その上日本の取り組みの特徴の理解を目指す。</p>
--------	---

■学習の要点	<p>学習の要点は、社会福祉の国際的動向を把握し、その学びから「日本とはどう異なるのか」、「日本は何をやっていて何をやっていないのか」を正確に理解することにおかれる。 テキストに基づいた学習の要点は次の通りである。 （1）社会福祉の視点から見て、近年起きている重要な社会変化を理解すること （2）福祉多元主義の意味を把握し、国によって福祉多元主義がどのような形をとっているのかを理解する （3）第三世界の貧困とその原因に対するグローバルな観点 （4）家族・児童、障害者、高齢者を対象とする社会福祉制度の国際的傾向を把握すること （5）特に、介護領域における各国の取り組みと日本の取り組みを比較の視点から理解すること （6）社会福祉労働の国際的傾向を把握すること （7）国際的傾向を踏まえて、日本の社会福祉について自分自身の視点に立って展望すること</p>
--------	---

■学習の到達目標	<p>受講生自らが比較的観点を持って、研究デザインができるようになること。</p>
----------	---

■成績評価の基準	<p>設題趣旨の理解度、テキストの学習、論理の一貫性、私見などを総合的に判断し、評価する。</p>
----------	---